



Gift for the Next **100 Years**

2014.4.1—2016.3.31
グリーフキャンプ報告書

公益社団法人日本キャンプ協会

本報告書について

本PDFの内容について、ページ単位での印刷は可能ですが、テキスト及び画像のコピーはできない設定としておりますので、ご了承ください。転載等を希望される場合、日本キャンプ協会にお問合せいただきますよう、よろしくお願いいたします。
なお、この冊子は実費にて頒布しておりますので、入手を希望される方は日本キャンプ協会へお問い合わせください。

お問合せ先：公益社団法人日本キャンプ協会

電話：03-3469-0217 メール：ncaj@camping.or.jp

©公益社団法人日本キャンプ協会

Gift for the Next 100 Years

2014.4.1—2016.3.31 | グリーフキャンプ報告書

もくじ

はじめに	4
キャンプの記録	7
SKY CAMP あさぎり 2014 春	8
SKY CAMP あさぎり 2014 秋	11
SKY CAMP あさぎり 2015 春	14
SKY CAMP のつどい	17
アンケート	19
レポート	23
そこに行けば何かがある ～グリーフキャンプという場の潜在能力～ (西田 正弘)	24
グリーフキャンプに参加して (高井 義文)	25
グリーフキャンプ普及のために (太田 正義)	27
資料	29
運営体制	30
会議記録	30
募集要項、ニュースレター	33

グリーンキャンプを終えて

グリーンキャンプ組織委員会 委員長（公益社団法人日本キャンプ協会 会長） 星野 敏男

はじめに

2011年3月の震災から5年が経ちました。公益社団法人日本キャンプ協会、公益財団法人日本YMCA同盟、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団の三団体は、平成24年度（2012年度）から共同で、東日本大震災で被害を受けた子どもたち、特に震災でご両親を失った子どもたちを対象にグリーンキャンプを実施してまいりました。このキャンプは、朝日新聞厚生文化事業団に震災後寄せられました寄付金を用いて行われ、東日本大震災で大切な人を失った子どもたちがその喪失を現実起こったこととして受け止め、それを受け入れることができるようになるプロセスに、キャンプの立場で寄り添うことを目的として実施されてきました。2012年の3月から5年間、合計6回のキャンプを実施しました。三団体共同で行ってまいりました本キャンプ事業は、平成27年度（2015年度）をもって終了とさせていただき、今後は、各団体それぞれの立場からグリーンキャンプに携わることとさせていただきました。

これまでの5年間、本事業に関わって来られました数多くの関係者の皆さまには、この場をお借りいたしまして、篤く御礼を申し上げます。今回の報告書は、先に出されました報告書（「グリーンキャンプ報告書／2013年6月 公益社団法人日本キャンプ協会」）に続く報告書でございます。

グリーンキャンプのあり方をめぐって

先述しましたように、日本キャンプ協会、日本YMCA同盟、朝日新聞厚生文化事業団では、三団体共同で、平成24年度から、東日本大震災で被害を受けた子どもたち、特に震災でご両親を失った子どもたちを対象にグリーンキャンプを実施してきました。いずれのキャンプも朝日新聞厚生文化事業団に震災後寄せられました寄付金を用いて実施されてきました。グリーンキャンプ実施に至る経緯やその考え方、初年度と次年度の3回のグリーンキャンプ（1回目は2012年3月、日本を離れた海外の台湾で実施。2回目は2012年9月、静岡の朝霧高原で実施。3回目は2013年3月、瀬戸内海の余島で実施）の詳細については、既に別紙報告書「グリーンキャンプ報告書／2013年6月 公益社団法人日本キャンプ協会」において、報告がなされました。

日本国内でのグリーンキャンプに関しましては、過去の実践例の報告や研究事例は殆ど見当たりませんでしたので、最初のグリーンキャンプの実施にあたりましては、グリーンサポートで著名な西田正弘氏など、グリーンケアの専門家や臨床心理の専門家の助言等を仰ぎながら、言わば手探りの状態で進め、参加する子どもたちにとって、可能な限り安心で安全な楽しいキャンプの場を提供することを心がけて過去3回のグリーンキャンプを進めてまいりました。

そこで、4回目のグリーンキャンプを実施するにあたり、グリーンキャンプ組織委員会の元に新たにグリーンキャンプ実行委員会を組織し、過去3回のキャンプ実践を踏まえつつ、今後このグリーンキャンプを三団体関係者はもとより、より多くのキャンプ関係者に広めていくためには、どのようなことを考えていかなければならないかについても委員会としてご議論いただきました。メンバーは三団体関係者で構成し、そこに臨床心理の専門家にも加わっていただきました。また、4回目の実践からは、日本キャンプ協会グループが指定管理者として運営する朝霧野外活動センター周辺で行うこととし、朝霧野外活動センターのプログラムディレクターで、キャンプを用いた臨床心理の専門家でもあります太田正義氏にグリーンキャンプのディレクターをご担当いただくこととしました。太田氏には、臨床心理のご専門の立場、キャンプ指導者の立場、双方の立場から今後グリーンキャンプを普及させていく上での課題等について実践の中でご検討いただきました。

また、西田氏をはじめ、グリーンケア専門家の人たちにも、その都度キャンプスタッフとして加わっていた

だきキャンプの中でアドバイスをいただきました。

この実行委員会の討議では、特に、今後、日本国内において、グリーフケアを専門としないキャンプ関係者が、独自にグリーフキャンプを実践するためには、どのようなことがポイントとなるか、今後グリーフキャンプをキャンプ関係団体として普及させていくためには、どのような点を注意すべきか、等について、ご議論いただきました。この4回目から6回目までのグリーフキャンプ実践と実行委員会内でのご討議から、グリーフキャンプに関わる貴重な実践記録や資料、今後の実践への貴重な示唆や可能性を得ることができました。

キャンプの枠組みとしての「グリーftime」の取り扱い

4回目以降のキャンプディレクターを依頼した太田氏は、臨床心理をご専門とし、日常業務として被虐待児やクリニック通院児などを対象にキャンプを通じた治療も行っているキャンプの実践家でもあります。キャンプの指導者、研究者としても多くの実践、研究を積んで来られた方で、太田氏からは「可能であれば、グリーftimeは入れずに、生活場面で出てくる感情の揺れなどは受け止める体制を作る方向でキャンプを検討してみたい」というご提言をいただきました。過去のキャンプ実践では、3回のうち2回のキャンプ中に、いわゆる「グリーftime（両親を失ったことによる悲嘆を自由に表現できる場の設定）」の時間をおおよそ一日に1時間ほど設け、この時間内でグリーftimeの専門家による対応を行っていただいております。

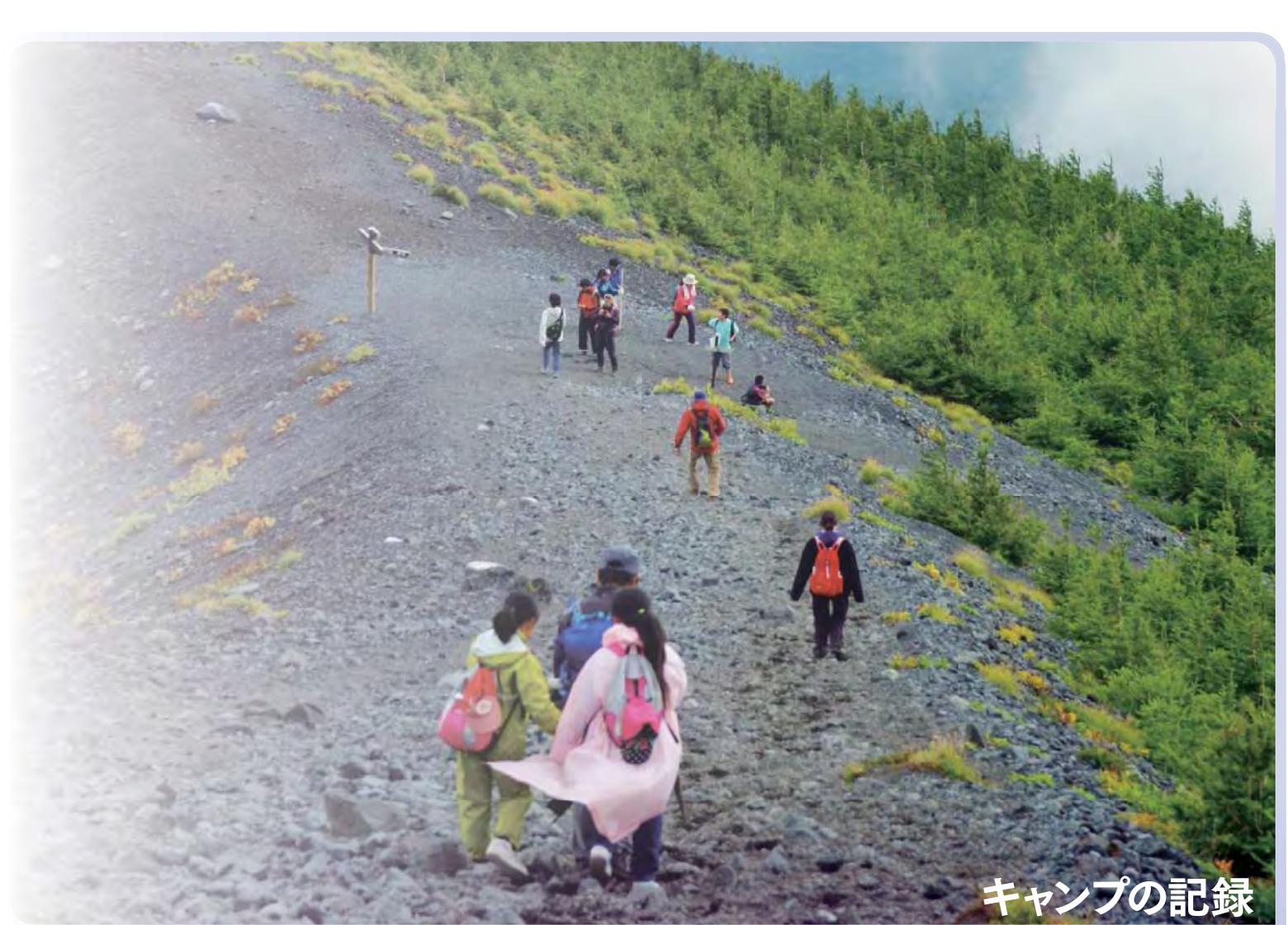
この提言をいただきまして、実行委員会では、キャンプ関係者がグリーftimeを実践する場合、その運営方法として、いわゆる「グリーftime」を入れるべきかどうかという議論から、「子どもたちの感情の表出をどう受け止めるか」、「キャンプとしてそれを受け止める体制をどう作ることができるか」等についても委員会の中でご議論いただきました。

個々の詳しい討議内容はここでは省きますが、実行委員会での話し合いとキャンプ実践を進める中で私たちが確認しましたことは、「キャンプそれ自体が大いにグリーftimeの機能を有している」こと「グリーftime専門家や臨床心理の専門家と共同でキャンプ行うことができれば、より望ましいグリーftimeの展開が可能である」ということでした。また、キャンプ中にグリーftimeの枠を設けるか否かについては、「グリーftimeの専門家がキャンプに関わっている場合には、そのような検討も可能である」こと、但し、「ケアの専門家が関わっておらず、感情表出を受け止める体制もできていない状態で、キャンププログラムの1つとして、グリーftimeの枠を設けることは、避けるべきである」こと、要は「子どもたちの感情表出を受け止める、安全で安心な受け入れ体制があるかどうか」が大きなポイントとなる」ことなどがわかってきました。そのような議論や検討の結果、4回目のキャンプではキャンプ中にグリーftimeを設けて行い、5回目以降からは、グリーftimeの専門家に一緒にキャンプに加わっていただきつつ、敢えてグリーftimeという枠は設けずに、キャンプ活動全般の中で子どもたちのグリーftime対応を心がける、要望に応じて対応するという形でキャンプを進めていただきました。

全6回のグリーftimeキャンプをふりかえりますと、キャンプの回数を重ねる毎に、出会う子どもたちの個々の成長とたくましさにより一層感じられた5年間でした。三団体共同でのキャンプは今回で終了となりますが、ご参加いただきました子どもたちとの関わりは今後も続けていきたいと考えております。

この間、専門家としてご相談やご意見をいただきました西田氏、高井氏をはじめとしたグリーftime・臨床心理の専門の皆さま、実行委員会でご貴重なご意見をいただきました委員会メンバーの皆さま、また、4回目以降ディレクターとしてキャンプを運営いただきました太田氏ならびに指導スタッフの皆さま、そして、各回の打ち合わせや下見、実践記録の作成など、グリーftimeキャンプ運営全般を担当されました日本キャンプ協会事務局の担当者にご場をお借りしまして、心より感謝の意を述べたいと思います。ありがとうございました。

本報告書が、今後のグリーftimeキャンプに携わる関係者の一助となれば、組織委員会・実行委員会の私たちとしても望外の喜びでございます。



キャンプの記録

Record of Camping

これまでは毎回、異なる場所でキャンプを実施してきましたが、4回目からは静岡県富士宮市の朝霧高原をホームグラウンドとして実施することになりました。

3回目のキャンプから丸1年経った2014年春、以降は半年ごとにキャンプを実施しました。その記録をまとめます。

2014 春



ぴったり入れちゃった!

日 程 ● 2014年3月29日～4月1日 (3泊4日)

場 所 ● 富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ (静岡県富士宮市)

参加者 ● 小学校4年生から高校1年生までの男女16人

協 力 ● 富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ、静岡県立朝霧野外活動センター

スケジュール

1
日目

集合
移動(新幹線・バス)
施設到着
はじめの会
施設見学
夕食作り(カレー)
夜のつどい

2
日目

朝のつどい
朝食作り
選択プログラム
(昼食)
おはなしの時間
夕食作り(鍋)
夜のつどい

3
日目

朝のつどい
朝食作り
ハイキング
(昼食)
夕食作り(BBQ)
スケート
夜のつどい

4
日目

朝のつどい
朝食(食堂)
記念写真撮影
思い出アルバム作り
おわりの会
施設出発
移動(バス・新幹線)
解散

4回目のキャンプは、富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジで行いました。静岡県の朝霧高原、富士山がすそ野まで見渡せる高台にある施設です。1年ぶりのキャンプに参加してくれたのは16名の子どもたち。うちリピーターは15名。たくさん子どもたちがまたキャンプに来たいと思ってくれて、参加してくれたことは嬉しいことです。

過去3回と比べると生活体験が多めの、キャンプらしいキャンプになりました。大きく変わったことは、朝と夜のご飯を自分たちで作ること＝炊事が毎食になったことです。最初こそ「えー！」と言っていた子どもたちも、初日は3グループにわかれて豚・牛・鶏それぞれのカレー作り、2日目は味噌・しょうゆ・塩味の鍋作りと、回数を重ねるごとに手際よく、率先して取り組むようになりました。もちろん片付けも自分たちです。食器や鍋を洗って、拭いて、片付けて…。小学校5年生に比べると4年生は、片付けに対してやる気のない子が多かったですが、声をかけて役割を与えるとしっかりと働いてくれました。これまでキャンプで毎食炊事をするとはなかったのが正直心配していましたが、こちらで想像していたよりスムーズに炊事が出来たのは大きな収穫でした。また炊事を通して、遊びだけでは見えない個々の性格も垣間見え、より子どもたちを知る機会にもなりました。

活動として炊事の時間は増えましたが、4日間ではほかにも活動を行いました。ウッドクラフト、紙ヒコーキづくり、ミサガづくりから選ぶクラフト

活動、アイススケートの体験、「白糸の滝・観光地めぐり」と「溶岩洞穴探検」の2コースに分かれた富士山探検ハイキングなど。活動の前にはどんなことをするのかを予告して、子どもたちがどの活動に参加したいか考えてもらう時間を与えました。あれ



富士山YMCAさん、ありがとうございました!



料理は私たちに任せて!
……あれ? 切り方どうするんだっけ?

もいいな、これもいいな、〇〇ちゃんはどこだろう……悩む姿も嬉しそうだったことが印象に残っています。

このキャンプではあえてグループを設定せず、活動では子どもたちが自ら選び、炊事ではこちらが設定したり、毎回違うメンバーでグループを組みました。仲良しの子と同じグループになれず拗ねる子、活動で男女混合グループになることに反対する子もいましたが、活動を自分で選べたり、その時々話したい相手、遊びたい相手を選べる自由さはよかったですと思います。キャンピングを囲む大草原、裾野まで見渡せる広大な富士山、広い浴室など施設の解放感もまた、自由さを感じてもらえる要素だったのではないかと思います。おかげで3泊4日と短い期間でしたが、キャンプ中はたくさんの笑顔がこぼれていました。

これまでのキャンプと違うと思ったことは、子どもたちが自分について語ることが増えたということです。移動する新幹線の中で、また炊事やハイキングをしながら、何気なく子どもたちは今の自分のこと、家族のことを話してくれます。震災から3年が経ち、少しずつ今の自分の状況を理解できるようになったからなのか、ここが話せる場所だと思ってもらえているからなのか、スタッフとの関係性が作れてきたからなのか……。どんな理由かはわかりませんが、対象が限られた場としての安心感も、より話しやすい雰囲気を作っていたように感じています。子どもたちが安心して自分の気持ちを表現できる場所・人がいることはとても大切だとあらためて感じました。

私たちはこのキャンプを通して、子どもたちに元気になってもらいたいと思っています。しかし、実際に私たちに出来ることは、子どもたちが自分たちでグループを整理していけるよう「見守っていくこと」、「また来たいと思えるキャンプという場所を無くさないようにすること」、それだけなのかもしれません。そんな思いも感じるキャンプとなりました。



最高のハイキング日和♪

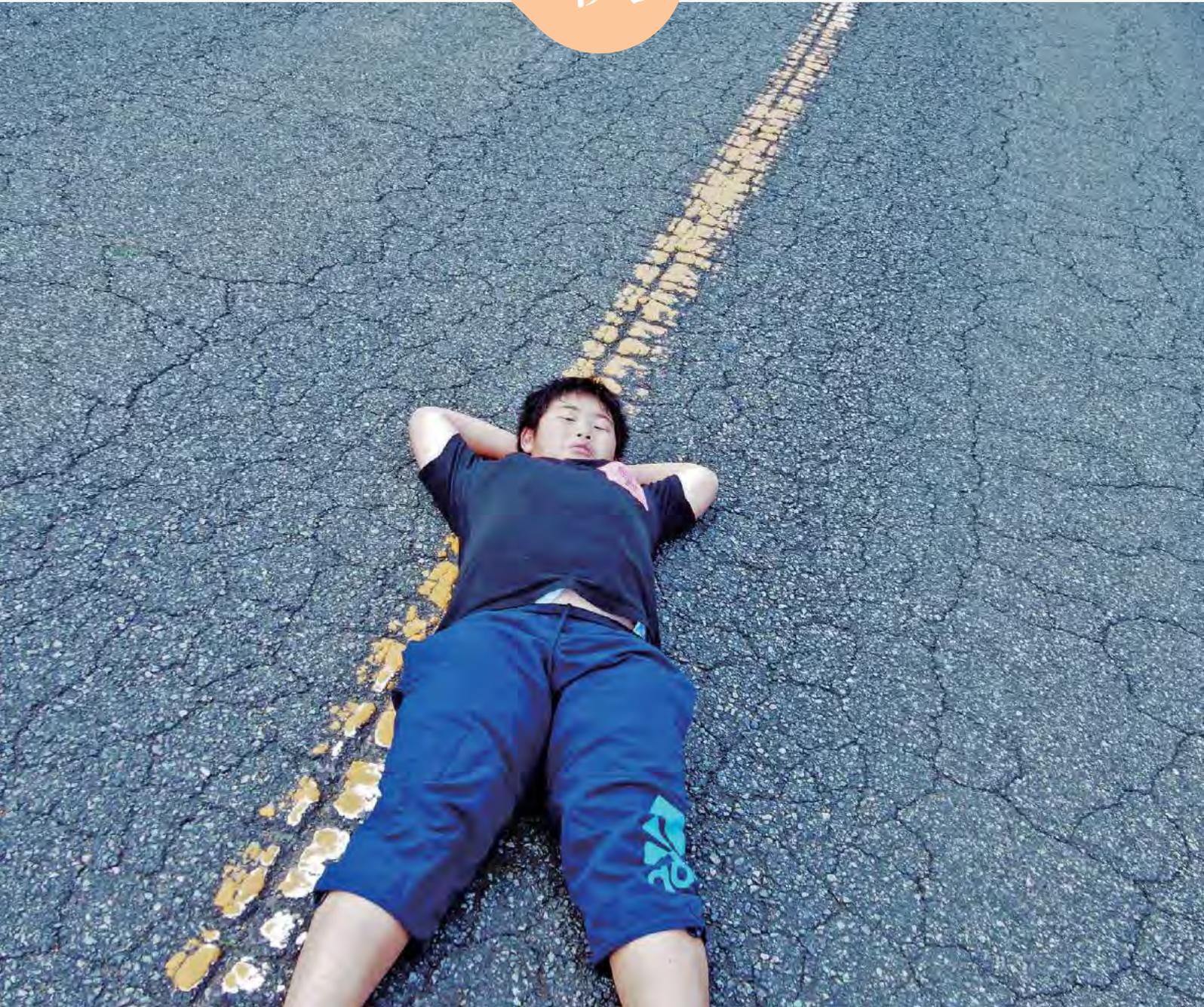


白糸の滝 ちょっと疲れちゃったかな……汗



みんな一緒にスケート体験!! ゆっくり～落ち着いて～

2014 秋



僕のベッドはワールドサイズ!

日 程 ● 2014年9月13日～9月15日 (2泊3日)
場 所 ● 静岡県立朝霧野外活動センター
参加者 ● 小学校5年生から中学校3年生までの男女7名
協 力 ● 静岡県立朝霧野外活動センター

スケジュール

1 日目

集合
移動(新幹線・バス)
施設到着
はじめの会
道の駅まで散策
夕食作り(カレー)
夜のつどい

2 日目

朝のつどい
朝食作り
宝永山ハイキング
(昼食)
夕食作り(BBQ)
夜のつどい

3 日目

朝のつどい
朝食(食堂)
寄せ書きカード作り
おわりの会
施設出発
移動(バス・新幹線)
解散



5回目のキャンプは、4回目のキャンプ場の近く、静岡県朝霧高原にある静岡県立朝霧野外活動センターで行いました。高原ということもあって標高が少し高く、近くには牧場も多い緑に囲まれた施設です。学校が始まった9月の3連休ということもあり、参加してくれたのは7名と少なかったですが、キャンプ場でのテント泊、毎食炊事をメインに、ゆったりとした時間を過ごしました。

日程は2泊3日ですが、東北からの移動を考えるとキャンプ場で過ごす時間はわずかに1日半。とても短いものです。1日目は道の駅までの往復8キロほどの散策をし、2日目は宝永山火口ハイキングに出かけました。もちろん今回も毎食、自分たちで食事作りをしました。前回の参加者がほとんどであったため、2回目となった食事作りは子どもたちが積極的に薪割り、火起こし、食材切りを手伝ってくれました。苦手なことは得意としている子へお願いし、スタッフが声をかけずとも自然に役割分担が出来ている姿を見て、子どもは半年で成長することを実感させてくれます。

宿泊はテントです。2回目のキャンプに参加した子どもたちは経験がありますが、それ以外の子どもたちは初めてのテント泊です。初めての体験は誰でもワクワクするもので、テント泊が初めてで楽しみにしていた女の子たちは、テントという限られた空間でこそそとお話をして、楽しい時間を過ごせたようです。

一方、男の子たちは2日ともビバークをしました。中学生のお兄ちゃんがビバークすると言い出し、寝



ソフトクリームあげ〜る!



宝永山 登山! 疲れたけど、楽しかった!

る場所付近で起きる怖い話を聞かされた小学生の2人組はテント泊にしたいのと、お兄ちゃんと一緒に寝たいのとで葛藤しギリギリまで迷っていましたが、最終的にはお兄ちゃんと一緒に寝る方を選びました。初日の夜は、外で寝るといった初めての体験に

恐る恐る寝袋を持って出でいった小学生たちでしたが、スタッフも一緒になってたき火を囲みながら、沸かしたお湯で温かい飲み物を飲む「藤岡弘、ごっこ」をして、初めてのビバークも楽しい体験になったようです。

最終日の3日目は、お土産として寄せ書きカードを作りました。書かれたメッセージを読んで嬉しそうな顔をしているのが印象的でした。

今回は全員リピーターでしたので、集合した時から慣れた様子でした。すでに関係が出来ているので、散策やハイキング、食事作りではいろんな話で盛り上がります。学校でのこと、今はまっていることやゲームのこと、それらに混ぜて家や家族のことも話をたくさんしてくれるのは、しっかりと聴くことが出来るスタッフがいたことや、何度か一緒にキャンプをしてきたことでスタッフが聴くことに慣れて余裕が出てきたことも理由にあるのかもしれない、と思うようになりました。周りの反応にとっても敏感な子どもたちです。スタッフが自然にとる“受け止めの姿勢”が、子どもたちの中に安心感をもたらしているのかもしれない。

このキャンプに来る子どもたちは、スキンシップを求め、かまってほしいという思いの強い子が多くいます。今回は参加者が少なかったので、その部分では一人ひとりに対して十分に対応することが出来たと思います。甘えなどの感情も遠慮なく出している子どもたちの姿を見ると、たとえ人数が少なくても楽しみにしている子どもたちのためにキャンプを続ける意味があると感じました。とはいえ、子ども同士の関わりの中で学ぶことも多くありますから、次回はより多くの参加者が来てくれるような方法を考えなければいけない、とも思います。

そして、今後このキャンプを継続していきたいという思いだけでは継続できないことも事実です。朝日新聞厚生文化事業団による寄付によって無料で招待できなくなる日も近づいています。子どもたちの

成長や、子どもたちの心の支えの一部を担っていると感じるからこそ、キャンプは継続したいと思っています。今後、どうやったら継続していけるのかを考えていかなければいけないと強く感じるキャンプとなりました。

お別れの時は、子どもたちはいつも寂しそうな表情を見せます。聞いてもはっきり答えが返ってくることは少ないので、その理由はほとんど分かりません。けれど、「キャンプが楽しいから帰りたくない!」といつも話してくれますから、私たちはその言葉を信じて、次のキャンプも楽しいものにしなければいけないと思っています。



藤岡 弘、ごっこ☆



新幹線で東北まで! ビュビュッと帰るぜ!

2015 春



こんにちは～赤ちゃん♪

日 程 ● 2015年3月28日～3月31日（3泊4日）
場 所 ● 静岡県立朝霧野外活動センター
参加者 ● 小学校2年生から中学校3年生までの男女13名
協 力 ● 静岡県立朝霧野外活動センター

スケジュール

1
日目

集合
移動(新幹線・バス)
施設到着
はじめの会
道の駅まで散策
夕食作り(カレー)
夜のつどい

2
日目

朝のつどい
朝食作り
お好み活動(昼食)
(MTB・クラフト)
夕食作り
(鍋・静岡おでん)
プラネタリウム鑑賞
夜のつどい

3
日目

朝のつどい
朝食作り
ハイキング
(昼食)
夕食作り(BBQ)
スケート
夜のつどい

4
日目

朝のつどい
朝食(食堂)
思い出アルバム作り
おわりの会
施設出発
移動(バス・新幹線)
解散

6回目のキャンプもいつもと同じく静岡県立朝霧野外活動センターにて行いました。今回参加してくれたのは13名。いつものようにリピーターが多数でしたが、今回は初めて参加する子も2人いました。2人は兄弟でしたが、お兄ちゃんの方は、同じ境遇にいる子たちと話がしてみたいという思いを持って、今回参加してくれました。

初日は移動距離が長いので、へとへとなりながらキャンプ場まで向かいます。しかし、到着してすぐの散策活動では移動の疲れを物ともしない元気な様子の子も達。富士山を横目に牧場の牛たちのモノマネをしながら陽気に散策をしていました。移動中は思うように動けませんから、そこからの解放感もあったかもしれません。

4日間のキャンプでは、ハイキング、選択プログラム、夜のプログラム(朝霧野外活動センター特有のアイススケート・プラネタリウム)といった活動をメインに、寝袋でのテント泊を基本として実施しました。明け方はまだ寒い時期でしたが、1日だけは外で寝ること(ビバーク)にも全員がチャレンジしました。4回目のキャンプからは、食事はほぼ自炊というところが特徴です。1日3食全て自分たちの手で作っていきます。キャンプも6回目になるので、慣れているリピーターを中心に、炊事も活動もスムーズに進みました。

3日目の夜、初めて参加した男の子の希望もあり、男の子キャンパー4人と男性スタッフ、臨床心理士

の8人で、グリーフのことを話す時間をもちました。キャンプディレクターがファシリテートし、途中キャンパー同士で質疑応答も交えながら震災当時の話やその出来事との向き合い方などについて話をしました。中2のMくん(震災当時小5)は、今抱え



も〜も〜ガールズ☆



気分はジャニーズ! 嵐が撮影した場所なんだって!

ているもやもやを吐き出すかのようにたくさん話をしてくれました。それを聴きながら一緒に参加していた弟も涙を流し、言葉にできない思いを表出させていました。印象に残ったのは、Mくんから他のキャンパーへ「どう乗り越えたのか」と質問されたときの、中3のKくんの答えでした。「乗り越えはしていないけれど、話すことが大事。友人は同じ境遇ではないかもしれないが、話せば聞いてくれるし分かってくれる。あと他県から来た心理士さんに話を聴いてもらえたのは楽になれた」。これを聞いたMくんがそのあと何を考えたのかはわかりません。キャンプ生活を通して子ども一人ひとりを見てきたディレクターがファシリテートし、臨床心理士がそ

の全体を見守る形で実施したから出来た会話だったように思います。まじめなお話のあと雰囲気は一転。男の子たちは寢床で恋愛トークをして盛り上がり、その日はなかなか寝付けない夜となりました。

震災から4年が過ぎ、子ども達の環境、年齢が変わっていく中で、その出来事との向き合い方も変化していきます。大人はその時どう関わっていけばよいのでしょうか。何度も参加してくれるリピーターを見ればグリーンフキャンプをおこなう意味はもちろんありますが、時間の経過とともにキャンプの在り方も変わっていくものなのかもしれません。



ボーイズトーク



ちょっぴり冷たいけど気持ちいい♪



富士山バックに はいチーズ! キャンプ最高!

SKY CAMPの つどい



スーパー熊ブラザーズ

日 程 ● 2015年10月31日～11月1日 (1泊2日)
場 所 ● 秋保グランドホテルとその周辺
参加者 ● 小学校5年生から高校1年生までの男女5名、
その保護者1名、スタッフ13名、計19名

この事業は、キャンプで出会った仲間たちがキャンプ以外でも繋がり続けてほしいという願いを込めて、キャンパーが比較的集まりやすい宮城県仙台市にある秋保温泉を会場に実施しました。

キャンパーは小学5年生から高校1年生まで、部活等で忙しい中、参加してくれました。スタッフもグリーンキャンプ組織委員、キャンプディレクター、キャンプカウンセラーに子どもグリーンサポーターステーション職員の方々と賑やかな面々です。

当日は仙台駅に集合し、バスに乗って秋保温泉へ向かいます。キャンパーとスタッフは久しぶりの再会に笑顔でお喋りが止まりません。秋保温泉に到着後、夕食までの時間、ホテル裏にある磊々峡らいらいきょうを見に行きました。磊々峡は巨石に囲まれた名取川が流れる渓谷で、所々大きな滝が顕在しており、その大迫力にみんな圧倒されていました。

夕食は食べ放題buffetで、和・洋・中の豪華な料理が並ぶ中、仙台らしく牛タンやカニなどもありました。中には牛タンばかり食べている子も。途中でキャンプディレクター、一部カウンセラーも合流し、楽しい食事の時間を過ごしました。

夜はキャンプの思い出を振り返る「キャンプのおもひでぼろぼろ」。グリーンキャンプ組織委員長の星野さんの乾杯で始まりました。自己紹介をしてから、思い出ムービーを見ます。このムービーは全キャンプを写真で思い出していく内容で、1回目のキャ

ンプ（2012年台湾）に参加した子の成長には、本人も周りの人もみんな驚いていました。ムービー鑑賞後、子どもには一人ひとりキャンプの感想を発表してもらいました。中3男子キャンパーは、「今まで周りに同じ境遇の人がいなかったの、キャンプに来て話ができただことは嬉しかった」と話してくれました。唯一の保護者の方は、「息子は初めキャンプに行くことが嫌だったようで、行かせて失敗だったかなと不安だったけど、キャンプから帰ってきて楽しそうに思い出話をするのを見て、行かせて良かったと思いました」と話してくれました。この日は思い出話に花が咲き、キャンプへの思いを胸に時間ギリギリまで過ごしました。

2日目は、女の子・男の子グループに分かれて好きな遊びをしました。大人も自由な時間を過ごしてもらえ、日頃のリフレッシュになったと思います。

解散の直前、中1女子キャンパーが話してくれました。「今はまだスマホを買ってもらえないけど、高校生になったら買ってもらって、買ったらずぐにLINEでキャンプのメンバーとつながってSKYCAMPのグループを作って、またみんなとキャンプじゃなくてもいいからどこかで会えたらいいな」と。事業としては最後になりますが、これからもキャンプに参加してくれたみんなが繋がりを願ってやみません。



夕飯美味しかったカニ♪ 牛タンもカニも食べ放題!



久しぶりにみんなと再会! 大きくなったね!



また会いましょう!!!



アンケート

Enquête

これまでの6回のキャンプをふりかえり、キャンプに参加してくれた子ども・その保護者・スタッフにアンケートをお願いしました。

キャンプの思い出、キャンプに参加した動機、スタッフの感想などから、キャンプの雰囲気を感じることができます。

アンケート



子どもたち



キャンプに参加してくれた子どもたちにはキャンプの思い出として作文を書いてもらいました。

一番楽しかったキャンプ

一番楽しかったのは、台湾に行ったとき！ 夜市で食べ歩きしたのが楽しかった。（小学校の方へ行ったときは、こま回しで上手くできなかったから、それを見て笑ってるのが許せなかった。）YちゃんとMちゃんとKちゃん、おばけ屋敷したのも楽しかった。できたら、また台湾に行きたい!! 飛行機は、できれば、キティちゃんがいい……。枕カバー集めたいからwww

次のキャンプがあるかどうかは分からないけど、部活がない日に、行きたい!! キャンプに行けない間は、部活と勉強頑張る!!

小学6年生 女子

キャンプの思い出

キャンプでは楽しいことがたくさんあります。台湾は、初めての外国で、キティちゃんの飛行機に乗れた。ショーロンポーがすごくおいしかったです。今でも他のお店とかでも、ショーロンポーを食べています。

あさぎりは、初めてのテントで、すごく寒かったです。キャンプファイアーは、楽しかったです。

二回目のあさぎりは、テントではなく、バンガローでよかったです。けしきもきれいでした。スケートも楽しかったです。

小学5年生 女子

スカイキャンプ

私はスカイキャンプに行ってみて、とても楽しい思い出がたくさんできました。

特に楽しかったのは「よしま」です。よしまでは飛行機がおくれたりしたけど、とても楽しい時間でした。そして、カヌーを初めてやってみて、難しかったけど、とても楽しかったし、海で、マシュマロ焼きして遊んだのも楽しかったです。

支援して下さった方々ありがとうございました。もっとスカイキャンプに行きたいと思います。本当にありがとうございました。

小学6年生 女子

初めて参加した時は、ドキドキしましたが、参加してみて、いろいろな経験、体験をして勉強になりました。楽しかったです。

小学5年生 女子

スカイキャンプに行って

私は、一番最初の台湾のときから朝ぎり2回とよしまに行きました。

よしまのときは、カヌーや小さい船に乗って移動したりして、とても楽しかったし、よしまの砂浜の海そうをとって、レンジで焼いて、味がワカメみたいでとてもおいしかったです。

台湾のときは、お金をかえて、双子だからといって、おまけでキーホルダーを無料でもらったり、大学生と関わったりして、とても楽しかったです。

またスカイキャンプに行きたいです。小学6年生 女子

私はスカイキャンプに3回行きました。1回目のよ島では、友達がいなかったけどみんなが声をかけてくれてすぐ友達になれました。1人で旅行するのは初めてで不安なことも初日だけで2日目からは楽しく遊びました。

2回目は、富士宮で1年ぶりに再会した友達といっぱい遊びました。白糸の滝でテンションが上がりお土産を買いすぎたことを家に帰ってから後悔しました。

3回目は、最後のキャンプでテントをはってねぶくろでねたり、MTB（マウンテンバイク）で走ったりふだんなかなか体験できないことをたくさんできてうれしかったです。

これで、スカイキャンプが終わってしまうのはとてもさびしいです。私もまたこのようなプロジェクトがあるならぜひ参加したいです。楽しいきかくをしてくださってありがとうございました。

小学5年生 女子

保護者



保護者の方には、5つの質問に答えてもらいました。

- ① お子さんはSKY CAMPに何回参加しましたか。
- ② お子さんを参加させようと思ったのはなぜですか。
- ③ お子さんを参加させてみて、保護者として良かったことを具体的にお願いします。
- ④ お子さんを参加させてみて、保護者として悪かったことを具体的にお願いします。
- ⑤ 参加前、参加後でお子さんの様子が変わったことをお書きください。具体的にお願いします。

- ① 5回（2012年3月、2012年9月、2014年3月、2014年9月、2015年3月）
- ② 震災後、自宅の周りには家が少なく子供がいない為、多くの子供と接し遊べる様になり参加させました。
- ③ 年上、同世代の人と接し、いろいろな話しをした様で少しずつ明るくなり笑いが出る様になりました。
- ④ 特にありません。言葉が悪くなったかな？ キャンプのせいではないと思いますが
- ⑤ 多くの人と話し話をしたり遊んだりした事を帰ってきて積極的に話をする様になりました。

小学6年生 女子 祖母

- ① 3回（2014年3月、2014年9月、2015年3月）
- ② いろいろな人と話をし、いろいろな体験をしてほしいと思いました。
- ③ 体験をしたこと、友だちを作ったこと
- ④ なし
- ⑤ 前は行くのがドキドキしていた。帰ってきたら疲れたけど、楽しく遊べたので良かった。

小学5年生 女子 叔母

- ① 3回（2013年3月、2014年3月、2015年3月）
- ② 同じ境遇の人達と会う機会がないので、キャンプで一緒に生活をして友達を作っておいて欲しいと思ったから。
- ③ 2回、3回と参加をして、きびしい環境の中にいる友達がいる事を知り、自分が恵まれている事に気が付いた。
- ④ なし
- ⑤ 児童会活動で福祉委員会に入り、自分に出来るボランティア活動とかに加わって活動している。

小学5年生 女子 祖母

- ① 2回（2013年3月、2014年3月）
- ② 色々な人とふれあって欲しかったから
- ③ 思いっきり体を動かさせた事
- ④ なし
- ⑤ キャンプの事など時々思い出して話してくれます。

小学6年生 男子 母

- ① 4回（2012年3月、2012年9月、2013年3月、2014年3月）
- ② ・多くの人に出会い、いろんな経験をつんでほしかった。
・本人が望む事は、できるだけ叶えてやりたいと思った。
・一つでも楽しい事や笑顔になる事があればよいと思っています。
- ③ 今まで行った事のない所へ行ける楽しみ、ワクワク感があり普段の生活の中では経験することができない、いろいろな事をする事ができた。私達がつれていられない所へ行く事ができた。
お友達がたくさんでき笑顔がふえました。
- ④ 1つありません。
- ⑤ 参加した仲間と友達になり、夏休みなど、お互いにおとまりなどして今も続けております。学校のお友達とも違った笑顔を見せてくれます。お互い心が通じる所があるのでしょうか。楽しみなようです。

小学5年生 女子 祖母

- ① 4回（2013年3月、2014年3月、2014年9月、2015年3月）
- ② グリーンサポートステーションを通して紹介していただきました。息子は不登校で元気がなく、震災の影響のない景色や環境の中で少しでも何か元気になるきっかけになればいいと思い参加させました。親を亡くした仲間と過ごすという点でも何か息子の気持ちを聞くきっかけになればいいと思いました。また安心して過ごせるのでは？という思いもありました。
- ③ 初回は行きも帰りも、膨れ顔で機嫌が悪く、親の想いで強制的に参加させたのは、やっぱり失敗だったと思いました。しかし、知人にはキャンプの話を楽しくし、知人からも「キャンプから帰ってきて明るくなったね」と言われ、とても楽しく過ごしてきたことが分かり安心しました。スタッフ皆さんのおかげです。ありがとうございます。そのあとは「行かない」と言うことはなく、毎回参加しキャンプの思い出話をたくさん聞かせてもらっています。私には気付かない、本人の変化をスタッフさんから教えてもらい、少しずつ本人の気持ちも成長しているのだと思います。
- ④ ありません。
- ⑤ ③の良かったことに加え……。キャンプ中に震災の話をしたことについて、1度も本人から聞いたことはないのですが、普段は震災に関する話（気持ち）は本当に限られた時にしか話さないで、キャンプで話せている、ということは本人にとって安心して話せる場なのだと思います。

中学3年生 男子 母

アンケート

スタッフ



スタッフには、4つの質問に答えてもらいました。

- ① いつもされているキャンプと違うところがあればお書きください。
- ② キャンプ中、子どもたちと接する際に気を付けていたことはなんですか。
- ③ キャンプ中、子どもたちから感じたことがあればお書きください。
- ④ SKY CAMPで楽しかったエピソードを教えてください。

①なし

②ケガ等しないよう安全面と、いつでもお話を聴けるようにしていました。

③キャンプだからこそ、見せる表情、表現できること、話せることがあるように感じます。

④おぼけやしきで、こわい話を聞き、おどろかされたこと。アーチェリーやカヌーでみんなと遊んだこと、アーチェリー全然できなかった。みんなでBBQをやったこと。火をつける子、なべを全力で洗う子、いろいろなエピソードが出てきます。

キャンプカウンセラー 男性

①なし

②・自分がプログラムを楽しむこと

・子どもといるときは子ども（誰かしら）の横にいること

③4回目からの関わりだったので、なんとも……よく喋るようになった？

参加者同士の関わりで、本性が出てきたなあと思うところに終わってしまった気もするので。

《特に女子》好き嫌いとかつるみ方とか嫌な感じ出したりとか……。

人とのくつき方の下手さは目立った気がする。具体的にと言われると、うーん……という感じですが。

④夜に火を囲んでどーでもいい時間を一緒に話して過ごしたこと。

キャンプカウンセラー 男性

①グリーププログラムがあったこと。あと、いつもより食事が豪華でした。(笑)

生活活動については、あまり変わりないです。

②震災のこと、家や家族のことはこちらから質問せず、参加者が話し出した時にだけきくようにしました。その子のタイミングで、話せる内容をちゃんときこうと思っていました。

③・震災を体験した子どもたちではありますが、女の子グループ内での関係性が気になりました。(その辺のことは同世代の子と変わらないなあ。少し幼い感じもありますが……)

・体力がないこと。(ゲーム、ネットに夢中なのかもしれないだろうなと思いました。でも楽しいことも他にたくさんあるよって教えてあげたい気持ちにもなります。)

④・ポエムの時間(みんないろいろ言うけれど、楽しみにしていたこと)

・ギョーザをつつんだ時(それぞれの包み方について話したり、普段の様子が自然と話せていたから。)

・おもいでアルバム作り(熱心に色をぬったり、切ったり貼ったり……。コメントを書いてとお願いする様子がよかったです。かわいかった。)

キャンプカウンセラー 女性

①キャンプの中で、全体(プログラム)としてつらい体験を語らせるという活動をしたことがなかったので、そこは私的にきついところでした。生活を共にしながら、出てきたことさらに対応していくというスタイルは、いつものキャンプでしていることなので、変わりなかったです。

②1人になることがないように、目を切らさないこと。
1人ずつ、ちゃんと話しかけること。

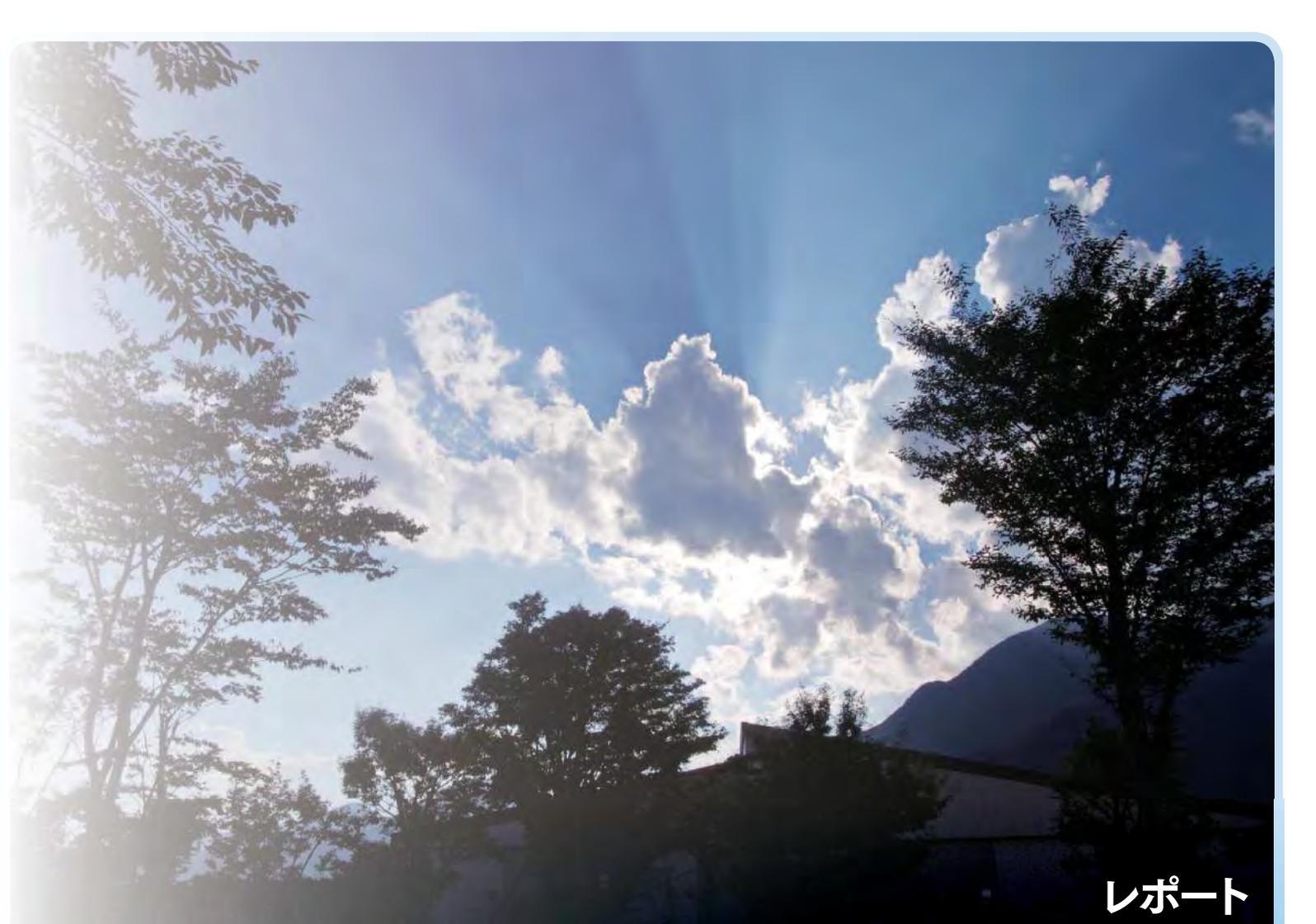
③1人1人が違うので(年齢、環境など)、それぞれ感じていることや今持っている問題など、個々で対応しなければならぬ部分があるなあと思いました。

また、今の生活の中で、とても頑張っているのだというのは、1人1人から感じました。

④活動中にやった、だるまんが転んだは、とても楽しかったです。なんとなく一緒に遊べる、その場においてみんな楽しそうというのが、とてもいいと思います。

オニの近くまで来て、つかまっているスタッフを1人だけ残して切るとか、止まっている人を笑わそうとオニがおかしいことをしたりとか、ちょっとしたイタズラができる関係があって、楽しかったです。

キャンプカウンセラー 女性



レポート

Report

キャンプではカウンセラーの他に、グリーフの専門家、臨床心理士の方にもかかわっていただきました。普段キャンプを実施する立場ではない方々から見て、キャンプはどう見えているのでしょうか。4回目以降のキャンプのディレクター報告と合わせて、レポートをまとめます。

そこに行けば何かがある グリーフキャンプという場の潜在能力

東日本大震災から5年を迎えようとしています。

宮城県仙台市や岩手県陸前高田市などで開催している死別を体験した子どもたちのグリーフサポートの場「ワンデイプログラム」で出会う子どもたちと触れ合っていることは、震災という出来事は時間的には過去になっていっても、その影響はさまざまな様相で現在進行形だということです。

ある小学生の双子の姉妹は母を失くしたあと親戚の家で生活するようになりました。父母は離婚していたからです。その後、施設で生活するようになり、中学生となった最近、新しい里親さんのところで新生活をスタートさせています。震災という大きな喪失と変化のあとに、居場所の喪失と変化が連続していたのです。

また、震災当時お母さんのお腹の中にいた子は「死」を実感する年齢になっています。お父さんがいたこと、でも津波で死んだこと、津波がどんなものだったかを突きつけられます。中学生・高校生は進路に悩みます。これは誰にでもあることですが、経済的心配や保護者と離れるかどうかという選択を迫られます。大学生は身近な生き方のモデルの不在という葛藤があります。大きく言うと安心安全の感覚が十分でなくチャレンジするという機会が少なくなり、寄り添う大人があまりいないという生活を送っていると書いていいように思います。

そんな中で非日常のキャンプ（グリーフキャンプ）に参加することは、万能ではないですが、リカバリーの空間として一息ついて、体験して感じた感覚を日常生活に持って帰れる可能性があると思

います。

これまで何度かグリーフキャンプに参加しましたが、そこには仲間（震災で家族を失くした経験をしている同年代の子ども同士）、ともに過ごす時間、安心と安全とチャレンジできる空間、寄り添う大人たちという存在がありました。それらを土台として、死別後にさまざまに起こった出来事に対する自分自身の気持ちをないものとするのではなく丁寧に触れつつ、それを表現することにチャレンジする時間、時に話しわかち合う時間を設けるという特徴的な時間がありました。その時間を通じて、いろんな思いがあるのは自分だけではない、いろんな気持ちがあるのは当然のことなのだ、いろんな気持ちがあっていいのだと実感することができるのです。その実感がかけがえのないつながりとなります。

さまざまな野外活動は、チャレンジすることで自分の関心や意欲というものを再確認させてくれます。木工作品などを作ることは集中することの楽しさがあり、出来上がった作品は共有した体験としての思い出となります。家に持ち帰って机に飾るということもあるでしょう。

グリーフキャンプは子どもたちの死別・喪失後の日常生活に新しい風を吹き込む潜在能力があると思います。それは同じ体験をした仲間との出会い、安心安全の中でのチャレンジ空間、自分のグリーフに丁寧に触れる時間、そして寄り添う大人たちの存在を感じるということです。そしてグリーフキャンプのその潜在能力は、子どもたちがそれぞれに持つ潜在能力を開花させるきっかけを子どもたちがつかむ可能性を秘めていると感じています。

グリーフキャンプに参加して

小さな身体のけがは、子どもにもともと備わっている免疫力によって時間とともに自然に回復していきます。こころの傷つき体験も同様です。回復の仕方はひとり一人の子どもによってことなります。また、こころの傷が大きい場合や、傷が深い場合は、自然な見守りだけでは回復が難しいことがあります。それだけに子どもの傷つきに適切に対応することは、将来の心身の健康増進の観点から非常に重要なことです。

さまざまな災害や事故、大切な人を亡くすなどの体験をして子どもたちの多くは、自分の力ではどうしようもない状況を目の前にして、こころの発達に傷つきを起こします。こうした傷つきは、子どもたちのこころに大きな無力感や孤立感を植えつけ、子どもたちの成長発達に必要な安心安全の感覚、自己肯定感、自己効力感などにネガティブな影響を与えます。これらは人が人として社会の中で主体的に生きていくために大切なちからです。そのため、傷つきからの回復は、まずはこれらを回復することを大切にします。

キャンプは遊びと生活で構成された基本的に楽しい活動です。子どもらしく、のびのびと楽しむことが何よりも優先されると思います。信頼できる大人に見守られながら、安心できることでそのような子どもらしさを取り戻すことができるのではないかと思います。自己肯定感(自信を持って取り組む力)や自己効力感(自分はできる、やれているという感覚)を養うためにはキャンプは最適な場所です。新しい体験や魅力的な体験が多く用意されています。一人ではできそうにならないことも仲間がいることで達成すること

ができます。また、集団の中でそれぞれに自分の役割があり、役に立っているという感覚を感じることがができます。

また、私はキャンプにはある程度の自由も必要だと感じています。集団生活ですので、基本的にはルールがあり、それを守ることは必要です。ここで言う自由とは活動を自分で選ぶこと(参加するかしないかも含めて)、どのように活動に参加するかを自分で決めることなのかと思います。そのように自由な雰囲気の中で主体性を持って参加することが意味あることなのではないかと感じます。

今回のキャンプに参加させていただき感じたこととしては、「子どもとの関係作り、スタッフが子どもを知ることにとっても時間をかけるなあ」ということです。心理学ではアセスメントという考え方があります。これはまずその人を知り、その人にあった支援を提供するために必須とされているものです。私たち心理士はアセスメントを行う上で対話や心理検査などのツールを使います。キャンプスタッフは子どもたちとの関わりの中で、遊びや活動を通して子どもたちの理解を深めていることが見て取れました。そうして子どもを知ること、その子にあった遊びや活動、支援を提供することを大切にされているのが分かりました。こういった取り組みは、準備されたプログラムに子どもたちの参加を促すよりも多くの手間と労力がかかります。よいものや正しいものを提供することよりも、子どもたちそれぞれに今必要な資源を提供できることが大切にされるべきなのではないかと思っています。

参加されていた子どもの中には、周りに被災をしている子がおらず、自分だけ



の経験として抱え込んでしまい、孤立感を強めてしまっている子もいました。今回のキャンプを通して、彼は自ら自分の経験を語ることを望みました。もちろんスタッフは彼が話しやすい雰囲気や場面をお膳立てはしましたが、彼自身が自分の経験を語ることを主体的に選択しました。友達も彼の話に耳を傾け、自分も同じように思ったし、感じていたことがあったと彼に伝えてくれました。彼にとっては、自分だけが抱えていると思っていた悩みを離れた場所にいる他の子どもも「同じように抱えているんだ」と知れただけでも、孤立感が和らいだことでしょう。一方で彼は年少の子から慕われ、頼りにされる役割をキャンプの中で得ることができていました。その経験は彼の自己肯定感や自己効力感を回復させる大きな力となったように感じました。

キャンプは非日常の場面でありながらも、求められることは生活のことであったり、友達との人付き合いであったり、日常生活に必要なことが求められるというおもしろい側面があります。また、長い時間をスタッフや仲間と共に過ごす時間は非常に濃密な時間となり、普段以上の人とのつながりを経験することができます。人が成長発達するためには他者は欠かせない存在であり、多くの豊かな経験を得ることができます。そのような経験は安心安全を提供するスタッフの事前の努力と、綿密な関わりによってなされているのだと思います。今回のキャンプに参加して、キャンプという空間やそれに関わる人たちが、子どもたちを成長させ、回復させているのだろうと強く感じました。



グリーフキャンプ普及のために

4回目から6回目までのキャンプディレクターを担当させていただきました。このキャンプでは、参加者の安心・安全のために24時間スタッフが共に過ごすこととし、キャンププログラムは自然生活体験をベースに、日中と夜間に（可能な限り参加者に合わせた）選択プログラムを組み入れたごくごくシンプルなものとししました。参加者は、毎日ご飯を作り、好きな活動（もしくは好きなスタッフ）を選び、好きな場所・方法（テント、ビバークなど）で寝ます。

グリーフキャンプ普及の観点から、各回ごと、①これまで通りグリーフケアの専門家によるプログラムがあるキャンプ、②県内の臨床心理士と共同でグリーフケアを行うキャンプ、③通常の組織キャンプとして実施しました。（①ではグリーフケア・プログラムを参加者全員に対して、②では希望があった男子の参加者のみに行いました。）

3回のキャンプを通して普及のための課題が見えてきたように思います。

①は、グリーフケアとキャンプの専門家が協力しお互いの役割をこなしていくという、とてもわかりやすく安全なキャンプだと感じました。新しいキャンプの形としてインパクトがあり、海外での実績からも、みなさんがグリーフケアに目を向けるきっかけになると思います。しかし、全国的にグリーフケアの専門家が少ない現状では同じ形式でのキャンプを普及させるのは難しいかもしれません。

②の地域の臨床心理士との共同は、今この子に何が起きているのか、また、この子に必要な支援は何かといったキャンプ中に必ず直面する疑問と一緒に解決していける安心感がありました。関わって

いただく方の専門領域やプログラムに対する考え方など、事前のミーティングを綿密に行う必要がありますが、こうした共同はキャンプの質を高めていくために、とても大切なことだと思います。今回は、精神科病棟に入院している子どもたちの森林療法を一緒に行っていた心理士さんをお願いしたため、スムーズな連携を図ることができました。

③が当然ながら一番普及しやすいと考えられます。普通に組織キャンプを行うことがグリーフケアにつながるのか？という議論は、繰り返し実行委員会でも検討されました。私の個人的な経験になるのですが、今現在、不登校児、障害児、社会的養護の当事者など支援が必要な子どもたちに対して、教科書通り（キャンプディレクター必携を参照）の組織キャンプを継続的に実施しています。そこに関わっていただいている医療・福祉・教育の専門家が、口を揃えて「キャンプでしかできない体験をさせてあげることが重要だ」といいます。キャンプでしかできない体験が、子どもたちの心を癒したり、支えになったりする可能性は十分にあるのではないのでしょうか。

今回、どのキャンプにおいても、キャンプスタッフは常に参加者と行動を共にし、一緒にキャンプを楽しむ役割に徹していましたが、野外調理やハイキングの最中、寝袋に入って寝るまでの間などに、自分の喪失体験や被災体験を語りはじめることが多々ありました。スタッフとの関係がそうさせたのか、キャンプという環境がそうさせたのかわかりませんが、グリーフキャンプのスタッフは、最低限、子どもの語りに対する対応を学んでおく必要があると思いました。

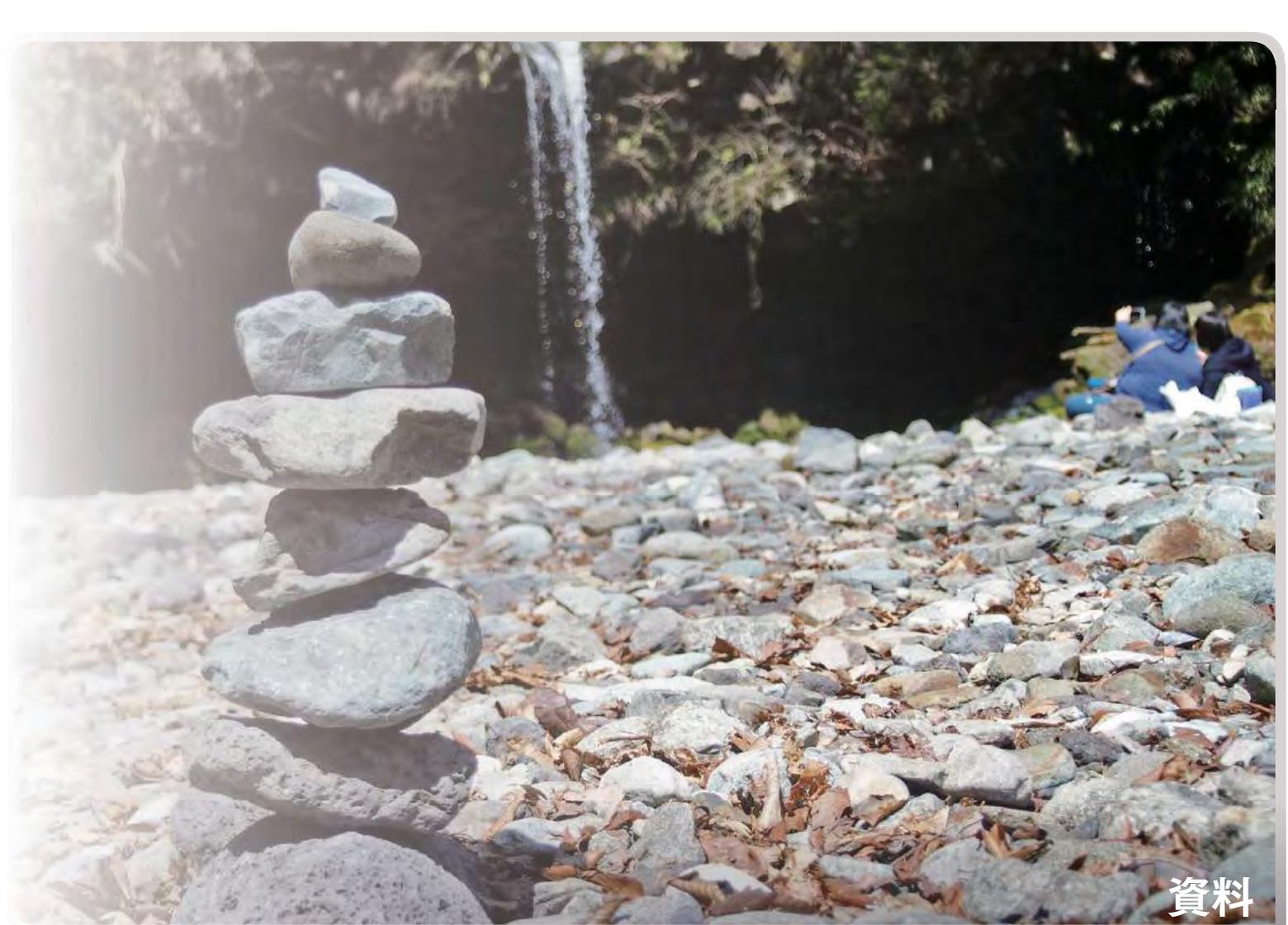


今回の一連のグリーフキャンプが参加した子どもたちにとってどんな意味を持っていたのか？が検討される中で、今後のグリーフキャンプの方向性が定まってくると思います。何か課題がある時に、それに対応した新しいことを取り入れるのも一つの解決方法でしょう。しかし、これまで良いとされてきた組織キャンプの方法論やキャンプカウンセリングが、

グリーフケアにも有効である可能性があるということもあわせて示していくことも大切だと思います。

最後に、限られた時間の中で献身的に協力いただいた、西田さんをはじめとするグリーフサポートステーションのみなさん、臨床心理士の高井さん、実行委員、キャンプ協会事務局のみなさん、どうもありがとうございました。





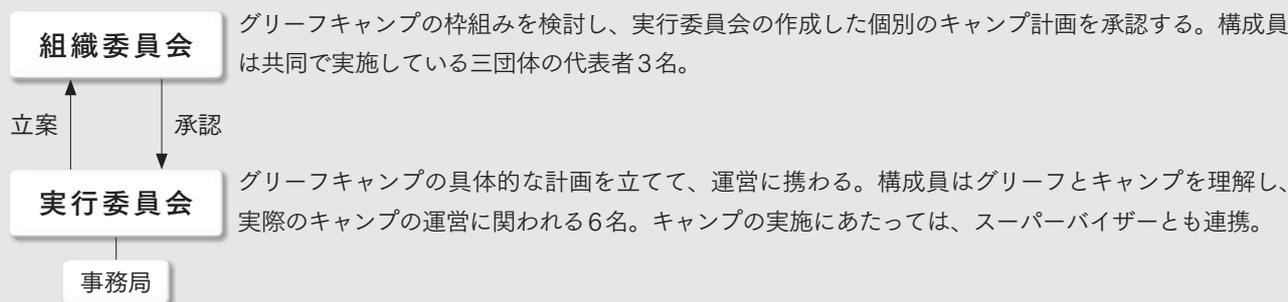
資料

Materials

グリーフキャンプを進めるにあたり、組織委員会、実行委員会ではキャンプの在り方や体制などについての検討をおこないながら、キャンプを実施してきました。

会議の開催記録や、各キャンプの募集要項、ニュースレターを参考にまとめます。

運営体制



組織委員会

- 大井屋 健治 | 社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団 事務局長
神崎 清一 | 公益財団法人日本YMCA 同盟 ウェルネス担当総主事
星野 敏男 | 公益社団法人日本キャンプ協会 会長
※ 石田 易司 | 公益社団法人日本キャンプ協会 前会長 注) ※の方は旧委員

- **第1回 グリーンキャンプ組織委員会** ※場所はいずれも国立オリンピック記念青少年総合センター
日 時：平成26年1月15日(水) 18:30～20:10
出席者：大井屋 健治、神崎 清一、※石田 易司
主な議題：これまでの事業報告・収支報告、今後の体制について、3月のキャンプ実施（案）について
- **第2回 グリーンキャンプ組織委員会**
日 時：平成26年6月26日(木) 18:30～19:00
出席者：大井屋 健治、神崎 清一、※石田 易司、星野 敏男
主な議題：委員交代について、3月のキャンプ実施報告・収支報告、9月のキャンプ実施（案）について
- **第3回 グリーンキャンプ組織委員会**
日 時：平成26年12月11日(木) 18:30～19:10
出席者：大井屋 健治、神崎 清一、星野 敏男
主な議題：9月のキャンプ実施報告・収支報告、3月のキャンプ実施（案）について、今後について
- **第4回 グリーンキャンプ組織委員会**
日 時：平成27年1月23日(金) 18:30～19:10
出席者：大井屋 健治、神崎 清一、星野 敏男
主な議題：3月のキャンプ実施報告（進捗状況）、今後について
- **第5回 グリーンキャンプ組織委員会**
日 時：平成28年3月25日(金) 15:00～15:40
出席者：大井屋 健治、神崎 清一、星野 敏男
主な議題：これまでの事業報告・収支報告

実行委員会

- 吉田 大郎 | 静岡県立朝霧野外活動センター 所長
 太田 正義 | 常葉大学 教育学部心理教育学科 講師
 坂本 昭裕 | 筑波大学 体育系 教授
 長谷川 孝 | 一般社団法人宮城県キャンプ協会 会長
 福田 年之 | 社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団 事業部長
 山根 一毅 | 公益財団法人日本YMCA同盟 協力部門国際担当 主任主事
 ※ 星野 敏男 | 明治大学 経営学部公共経営学科 教授 (のちに組織委員となる)

● 第1回 グリーフキャンプ実行委員会 ※場所はいずれも国立オリンピック記念青少年総合センター

日 時：平成25年10月29日(火) 18:00～20:20

出席者：吉田 大郎、太田 正義、坂本 昭裕、長谷川 孝、福田 年之、山根 一毅

主な議題：運営体制について、委員会が担う役割の確認、これまでのキャンプ報告・収支報告、3月のキャンプ実施について

● 第2回 グリーフキャンプ実行委員会

日 時：平成26年2月18日(火) 18:00～21:00

出席者：吉田 大郎、太田 正義、長谷川 孝、福田 年之、星野 敏男、山根 一毅

主な議題：組織委員会の報告、3月のキャンプ実施について（進捗状況報告、内容・スケジュール確認、評価方法について）、年間のキャンプ計画について（日程、場所、対象者、募集先）

● 第3回 グリーフキャンプ実行委員会

日 時：平成26年3月17日(月) 18:00～20:50

出席者：吉田 大郎、太田 正義、長谷川 孝、福田 年之、星野 敏男、山根 一毅

主な議題：3月のキャンプ実施について（進捗状況報告）、グリーフキャンプの意義・目的について、キャンプの対象者、募集先について

● 第4回 グリーフキャンプ実行委員会

日 時：平成26年5月28日(水) 18:00～20:05

出席者：吉田 大郎、太田 正義、坂本 昭裕、長谷川 孝、福田 年之

参席者：星野 敏男

主な議題：3月のキャンプ実施報告・収支報告、9月のキャンプ実施について

● 第5回 グリーフキャンプ実行委員会

日 時：平成26年7月28日(月) 18:00～20:05

出席者：吉田 大郎、太田 正義、坂本 昭裕、長谷川 孝、福田 年之

参席者：星野 敏男

主な議題：9月のキャンプ実施について（進捗状況、体制、プログラム）

●第6回 グリーフキャンプ実行委員会

日 時：平成27年4月16日(木) 18:30～20:20

出席者：吉田 太郎、太田 正義、長谷川 孝、福田 年之、山根 一毅

参席者：星野 敏男

主な議題：9月のキャンプ実施報告、収支報告、3月のキャンプ実施について

●第7回 グリーフキャンプ実行委員会

日 時：平成26年10月2日(木) 18:30～20:20

出席者：吉田 太郎、太田 正義、長谷川 孝

参席者：星野 敏男

主な議題：3月のキャンプ実施報告・収支報告、組織委員会での決定事項の報告、リユニオン実施について、
報告書作成について

■第3回会議資料「グリーフキャンプの意義と目的」

※実行委員 福田年之氏の前案をもとに委員会で修正しました。

グリーフキャンプの意義と目的

グリーフキャンプの「目的」

東日本大震災で大切な人を失った子どもが、その喪失を現実におこったこととして受け止め、それを受け入れることができるようになるプロセスに、キャンプの立場で寄り添い見守る。

グリーフキャンプの「意義」

- ・同じような喪失体験をした子どもたちが、ピアとして集まることができる。
- ・グリーフを抱えた子どもたちに、安心、安全な環境を提供する。
- ・(東日本大震災で)死別を体験した子どもに、キャンプを通じてグリーフサポートを行う。
- ・精神科医や心理職による専門家との協働により、非日常の立場でサポートの場をつくる。
- ・グリーフの正しい理解を広める。
- ・グリーフキャンプのスタンダードをつくり、普及する。
- ・グリーフを正しく理解し、サポートを行う市民を育てる。
- ・グリーフの意味とグリーフサポートの重要性を社会に啓発する。
- ・今後、東日本大震災のような大きな自然災害や、大きな事故災害、事件などが発生したときに、グリーフの視点で子ども(人)に対する支援を行う素地をつくる。
- ・大規模災害や事故だけでなく、交通事故による死や病死、自死などによる喪失、さらには児童虐待などによる社会的養護にある子どもの喪失など、社会にいる多くのグリーフサポートを必要とする子どもに対するキャンプの可能性、有効性を示す。
- ・これらについて社会的なプラットフォームの一部を形成することに、公益社団法人として実践を通じて寄与し、社会的責任を果たす。
- ・「グリーフキャンプ」の実践により社会的プレゼンスを形成する。

SKY CAMP あさぎり2014春 ■ 募集要項・ニュースレター

東日本大震災 子どもキャンプ

スカイ キャンプ
SKY CAMP
あさぎり2014春



**じかいいさん
世界遺産になった富士山を見に行こう！**

日程：2014年3月29日(土)～4月1日(火) 3泊4日
場所：静岡県立朝霧野外活動センター・キャンプ場(静岡県富士宮市)
対象：①東日本大震災で両親が亡くなったか行方不明状態の小学3年生～高校3年生
②主催者が参加を認める、東日本大震災でたいせつな人を失った小学3年生～高校3年生
費用：無料(参加費と集合・解散場所から現地までの交通費は主催者が負担します。ただし、集合場所までの交通費は各自負担ください。)
※このキャンプは朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた東日本大震災救援基金によって実施されます。
定員：30人程度
主催：公益社団法人日本キャンプ協会・公益財団法人日本YMCA 同盟
社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団

これまで私たちは、東日本大震災で両親やたいせつな人を失った子どもたちを対象に3回キャンプを行ってきました。最初は台湾、2回目は静岡県の朝霧高原、3回目は香川県の余島という島でした。どのキャンプも初めての場所で緊張もりましたが、何かにチャレンジしたり、仲間と話したりのんびりしたり、楽しい時間を過ごしてきました。

次はどこでキャンプをしようかと考えてきましたが、今回は再び静岡県、富士山を間近に見ることのできる朝霧高原でキャンプすることにしました。前回は夏でしたから、春の朝霧高原はまた違った姿を見せてくれると思います。

キャンプをたくさん経験したスタッフがいっしょですから、初めての参加でも心配はいりません。ぜひ参加してください。もちろん、これまでに参加したことのある方もお待ちしております。



**みなさんの参加をお待ちしています！
楽しい4日間を過ごしましょう**

スケジュール(予定)

1日目・3月29日(土)
あさ 集合/新幹線・バスなどで移動(スタッフが引率しませ)
夕方 朝霧野外活動センターに到着/始めの会/野外炊事
よる ナイトプログラム(ボンファイアー) /よるのついで/就寝(テント泊)

2日目・3月30日(日)
あさ あさのついで/おこのみ活動
ひる おこのみ活動/夕食づくりなど
よる ナイトプログラム(スケートまたはプラネタリウム) /よるのついで/就寝(テント泊)

3日目・3月31日(月)
あさ あさのついで/富士山探検
ひる おこのみ活動/夕食づくりなど
よる ナイトプログラム(ファイアー) /就寝(テント泊)

4日目・4月1日(火)
あさ あさのついで/荷物片づけ/おみやげづくり
ひる 終わりの会/バス・新幹線などで移動(スタッフが引率しませ)
夕方 解散



集合と解散について

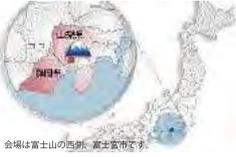
- ・集合・解散場所は、盛岡駅、仙台駅など、参加者の居住地を考慮して複数設定します。それ以外の地域にお住まいの場合は、相談のうえ決めます。
- ・主催団体のスタッフが集合から解散まで責任を持って引率します。
- ・遠方にお住まいの方も、個別の集合や前泊などの対応もしますので、ご相談ください。

キャンプをするのはどんなところ？

キャンプをするのは、静岡県の朝霧高原というところで。天気が良ければ、頭に雪がふった富士山がとっても近くに見えるところ。高原というくらいですから、近くにはたくさんの牧場があって、牛がいっぱい飼われています。自然豊かでのんびりとした時間を過ごせます。

今回の宿泊はテント泊です。浴室はありませんが、全員が一緒に利用できるくらい大きなシャワー室がある、十分な設備が整ったキャンプ場を利用します。

夕食づくりでは静岡ならではのものが食べられるかも知れません。みなさんにもお手伝いしてもらいます。



会場は富士山の西側、富士宮市です。

キャンプではなにができるの？

- ・富士山探検 せっかく富士山の近くにいるならもっと富士山に近づいてみよう！
- ・洞くつ探検 富士山のふもとにある洞くつへみんなで探検にいきましょう！
- ・MTB マウンテンバイクに乗って風をきって牧場や湖を見てまわろう！

ほかにも、ハイキングやウォークラリー、スケート、キャンプファイアーなどチャレンジしたり、体を動かしたりする活動と、プラネタリウム鑑賞、クラフト(ハードコア、ウッドクラフト、キャンドル、コップコースター、ブーメランづくりなど)のような室内で少し落ち着いておこなう活動、いろいろな遊びを考えています。



一お申し込み

- ・所定の申し込み用紙に必要事項を記入して、FAXまたは郵送でお送りください。受付後、詳しいご案内をお送りします。
- ・申し込み締め切りは**2月28日(金)**です。お早めにお申し込みください。

※参加を断っている場合もご連絡ください。参加できる方法を一覧に考えます。

一費用・保険等

- ・参加費は無料です。集合・解散場所から現地までの往復交通費は主催者が負担します。ただし、自宅から集合・解散場所までの交通費は各自で負担してください。
- ・主催者が一括して旅行傷害保険に加入します。

一参加者説明会

- ・今回、説明会は実施しません。必要な情報の確認は、電話で伺うなどいたします。
- ・参加をお申し込みいただいた方には、連絡を受けられる曜日や時間帯の確認をさせていただきます。

※この案内は社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団が実施する「子ども応援金」にお申し込みいただいた方々にお送りしています。
※申し込み時にお預かりした個人情報、公益社団法人日本キャンプ協会が責任を持って管理し、このキャンプの実施および今後のキャンプ等のご案内にのみ使用します。
※このキャンプは、公益社団法人日本キャンプ協会、公益財団法人日本YMCA 同盟、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団が、国内外のキャンプ関係団体の協力を得て実施するものです。

子どもキャンプ通信 12
SKY CAMPニュースレター
2014年4月30日
発行：日本キャンプ協会・日本YMCA同盟・朝日新聞厚生文化事業団

富士山の近くでキャンプしてきました！

2月にご案内した「SKY CAMP あさぎり2014春」を3月29日～4月1日の4泊5日でおこないました。参加してくれたのは、小学校4年生から高校1年生までの16人。これまで台湾・朝霧高原・余島と3回キャンプをしてきましたが、そのいずれかに参加したことのある15人の子どもたちが、今回も再び参加してくれました。

場所は朝霧高原。富士山がどんと構える姿を見渡せる場所で、はじめて会うリーダーやお友だちと、楽しい体験をたくさんしました。そのようすを少しご紹介します。

読んでみて「楽しそうだなあ」と思ったら、ぜひ次のキャンプに参加してくださいね！

キャンプの概要

名称：SKY CAMP あさぎり2014春
日程：2014年3月29日～4月1日(3泊4日)
主催：日本キャンプ協会・日本YMCA 同盟
朝日新聞厚生文化事業団
協力：富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ
静岡県立朝霧野外活動センター
※本事業は朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた寄付金を用いて実施しています。



スケジュール

1日目 集合 移動(新幹線・バス) 施設到着 はじめの会 施設見学 夕食作り(カレー) 夜のついで	2日目 朝のついで 朝食作り 選択プログラム (昼食) おはなしの時間 夕食作り(鍋) 夜のついで	3日目 朝のついで 朝食作り ハイキング (昼食) 夕食作り(BBQ) スケート 夜のついで	4日目 朝のついで 朝食(食堂) 記念写真撮影 思い出アルバム作り おわりの会 施設出発 移動(バス・新幹線) 解散
---	---	--	---

すかい きゃんぷ SKY CAMP in あさぎり 2014 春 2014年3月29日~4月1日

① こんにちは

参加してくれたのは16人。宮城、福島、神奈川、岡山といったところから集まりました。顔見知りも多かったので、移動中の会話も盛り上がり、「早く遊びたい!」そんな気持ちが伝わってきます。これから4日間どんなキャンプになるのかな? (3/29)

④ 雨だからのんびりと



雨の日スタートの2日目は炊事場で朝ごはん作りから、おしいたいだいた後は、片づけも協力して取り組めます。鍋の片づけは男の子たちが!とでもきれいに洗ってくれました。この日は室内で紙飛行機づくり、フットクラフト、ミサンガづくり。もくもくと集中して作ったり、息抜きにコロコロしたりのお絵かきしたり、スタッフと共にのんびりとした時間を過ごしました。夕方からは、4つのグループにわかれて、カードを使ったゲームをしながら自分のことを話したり、友達の話も聞いたりする時間もありませんでした。(3/30)



⑦ スケートに挑戦!

ハイキングですいたお腹をBBQで満たしたら、夜はスケートをしに朝霧野外活動センターへ。スケートの先生に教えてもらって、最初はおっかやなびつくり滑っていた子も、終わりに至るにはスイスイ滑れるように。最後はAKBの「恋するフォーチュンクッキー」に合わせてダンス。スタッフは子どもの上達の手伝いに感心するばかりでした。(3/31)



② ひろくてでっかい!

東京駅からバスに乗って約4時間、富士山YMCAに到着です。荷物を置いたらはじまりの会。キャンプでのルールを確認します。ひろい草原、すそまで見えるとても大きな富士山。富士山が見えるお風呂やみんなのキャビン。施設探検をしながら走り回って大笑いするうちに、初めてのスタッフももうら解けていきました。(3/29)



⑤ 売り切れごめん!

野外炊事も2回目となると、みんなが自分の役割をしっかりとこなし、手順よく進みます。メニューは高原の野菜たっぷりの鍋。3グループそれぞれ、塩味・しょうゆ味・みそ味で作りました。1日遊んでお腹がすいていたのか、鍋もご飯も売れました。夜にはみんなの願いがかない、20分という短い時間でおしゃべりしきも実現!満足して眠りにつくみんなを見守るように、満点の星空が明日の天気を教えてくれました。(3/30)



⑧ おもいでをアルバムに

最後の日もいい天気にも恵まれ、富士山もみんなが無事に帰れるよう見守ってくれているようです。朝ごはんを食べたら、富士山を背景に記念撮影。バスに乗るまでの時間は、この4日間のおもいでアルバムを作ります。すきな色画用紙で作ったアルバムに写真を貼ったり、スタッフと一緒にキャンプをした友だちにメッセージを書いてもらったり。オリジナルのアルバムを手にほころびな様子でした。(4/1)



③ どのカレーがおこのみ?

この日の夕飯は牛・豚・鶏の3種類のカレー。食材を切ったり、まきを割ったり、火をおこしたり、みんな協力して作りました。肉以外は同じ食材を使っているはずなのに全てまったく違う味に。自分のグループが1番おいしい!とみんな主張していましたが、実際にはどれもおもしろかったですよ。(3/29)



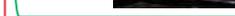
⑥ 世界遺産ハイキング

晴天で迎えた3日目。今日の体操は「ウルトラマン体操」。昨日の「きこ体操」は変だっただけと今日のは楽しみながらできました。朝ごはんを食べた後片づけをしたら、この日は「白糸の滝・観光地」が「溶岩洞穴探検」の2コースに分かれてハイキングです。忘れ物がないよう荷物とお弁当を持って出発。富士山を眺めながら10kmほど歩くコース。美しい滝を見たり、洞穴でコウモリを見つけた。途中でおいしいソフトクリームを食べ、おみやげを買って、いろんな話をして、少し疲れたけど、また1つ楽しい思い出が増えました。(3/31)



⑨ また会える日まで

数名のスタッフとお世話になった富士山YMCAにはここでお別れ。見えなくなるまで手を振ってくれたスタッフを見て、キャンプが終わってしまうことを実感します。帰りの時間は早く感じるもので、あっという間に東京駅に到着。お別れのときはおしゃべりして「またね!」「元気でね!」とお互い見えなくなるまで手を振りあいます。次のキャンプでの再会を約束して、みんな笑顔でお別れができたような気がします。(4/1)



ごどもキャン通信 その12

SKY CAMP あさぎり 2014 秋 ■ 募集要項・ニュースレター



スカイ キャンプ SKY CAMP あさぎり 2014 秋

日程: 2014年9月13日(土)~9月15日(月・祝) 2泊3日
場所: 静岡県立朝霧野外活動センター・キャンプ場(静岡県富士宮市)
対象: ①東日本大震災で両親が亡くなったか行方不明状態の小学3年生~高校3年生
②主催者が参加を認める、東日本大震災でたいせつな人を失った小学3年生~高校3年生
費用: 無料(参加費と集合・解散場所から現地までの交通費は主催者が負担します。ただし、集合場所までの交通費は各自ご負担ください。)
※このキャンプは朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた東日本大震災救援募金によって実施されます。
定員: 30人程度
主催: 公益社団法人日本キャンプ協会・公益財団法人日本YMCA 同盟
社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団

東日本大震災で両親やたいせつな人を失った子どもたちを対象に、私たちはこれまで4回キャンプをおこなってきました。5回目は静岡県、富士山を間近に見ることのできる朝霧高原でのキャンプです。朝霧高原は自然豊かで、のんびりとした時間を過ごせます。ここで、みなさんといっしょに楽しいキャンプができればいいなと思っています。いままではなかなか参加できなかった方も、ぜひ参加してください。キャンプをたくさん経験したスタッフがいっしょですから心配はいりません。

みなさんとキャンプできることを楽しみにしています!



スケジュール(予定)
★1日目・9月13日(土)
あさ 集合/新幹線・バスなどで移動(スタッフが引率します)
ひる 朝霧野外活動センターに到着/始めの会/野外炊事
よる ナイトプログラム(ファイアー)/夜のつどい/健忘(テント泊)
★2日目・9月14日(日)
あさ 朝のつどい/野外炊事/おこのみ活動
ひる おこのみ活動/野外炊事
よる ナイトプログラム(フライング)/よるのつどい/健忘(テント泊)
★3日目・9月15日(月・祝)
あさ 朝のつどい/荷物の片づけ/おみやげづくり
ひる 終わりの会/バス・新幹線などで移動(スタッフが引率します)
夕方 解散

キャンプの生活について

- ・テントに宿泊します。浴室はありませんが、全員がいっしょに利用できるほどのシャワー室がある、十分な設備が整ったキャンプ場を利用します。
- ・ごはんは自炊です。火起こしをはじめ、食材の準備・調理など、みんなで分担して作ります。
- ・経験豊富なキャンプカウンセラーが、参加する子どもたちといっしょに過ごし、必要に応じて生活や活動のお手伝いをします。



会場は富士山の西側、富士宮市です。

費用と保険について

- ・参加費は無料です。集合・解散場所から現地までの往復交通費は、主催者が負担します。ただし、自宅から集合・解散場所までの交通費は各自で負担してください。
- ・主催者が一括して旅行傷害保険に加入します。

お申し込みについて

- ・所定の申し込み用紙に必要事項を記入して、FAXまたは郵送でお送りください。受付後、詳しくご案内をお送りします。
- ・申し込み締め切り8月15日(金)です。お早めにお申し込みください。

お問い合わせ・お申し込み先

公益社団法人日本キャンプ協会 (担当:吉野・前田)
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター内
電話: 03-3469-0217 FAX: 03-3469-0504 E-mail: ncj@camping.or.jp

※この案内は社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団が実施する「子ども応援基金」にお申し込みいただいた方々にお送りしています。
※申し込み時にお送りした個人情報、公益社団法人日本キャンプ協会が責任を持って管理し、このキャンプの実施および今後のキャンプ等のご案内にのみ使用します。
※このキャンプは、公益社団法人日本キャンプ協会、公益財団法人日本YMCA同盟、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団が、国内外のキャンプ関係団体の協力を得て実施するものです。
※次のキャンプは、2015年春(3月来場)を予定しています。

集合と解散について

- ・集合・解散場所は、一ノ関駅、仙台駅など、参加者の居住地域を考慮して設定します。それ以外の地域にお住まいの場合は、相談のうえ決めます。
- ・主催団体のスタッフが、集合から解散まで責任を持って引率します。
- ・遠方にお住まいの方も、個別の集合や前泊などの対応もしますので、遠慮なくご相談ください。

参加者説明会について

- ・参加者を対象に説明会をおこなう予定です。日程や会場は別途、お知らせします。
- ・参加できない場合は、電話でお話を伺うなどいたします。ご安心ください。

子どもキャンプ通信 14
SKY CAMPニュースレター

2014年10月10日

発行: 日本キャンプ協会・日本YMCA同盟・朝日新聞厚生文化事業団

朝霧高原でキャンプしてきました!

7月終わりにご案内した「SKY CAMP あさぎり2014秋」を9月13日~15日の2泊3日でおこないました。参加してくれたのは、小学校5年生から中学校3年生までの男女7人。人数は少なかったですが、過去のキャンプに参加したことのある子どもたちが、ふたたび参加してくれました。場所は静岡県の朝霧高原。富士山が近くに見えるキャンプ場で、半年ぶりのスタッフやお友だちと、はじめての体験もしました。天気にもめぐまれてゆったりと過ごせたキャンプ。そのようすを少しだけご紹介します。

読んでみて「楽しそうだなあ」と思ったら、ぜひ次のキャンプに参加してくださいね!

キャンプの概要

名称: SKY CAMP あさぎり2014秋
日程: 2014年9月13日~15日(2泊3日)
主催: 日本キャンプ協会・日本YMCA同盟・朝日新聞厚生文化事業団
協力: 静岡県立朝霧野外活動センター
※本事業は朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた寄付金を用いて実施しています。

スケジュール

1日目	2日目	3日目
集合	朝のついで	朝のついで
移動(新幹線・バス)	朝食作り	朝食(食堂)
施設到着	宝永山ハイキング	寄せ書きカード作り
はじめの会	はじめの会	おわりの会
道の駅まで散策	夕食作り(BBQ)	施設出発
夕食作り(カレー)	夜のついで	移動(バス・新幹線)
夜のついで		解散

スカイキャンプに来てくれたみんなさん
キャンプに来てくれてありがとう
また会えるのを楽しみにしています



すかい きゃんぷ SKY CAMP あさぎり 2014 秋 2014年9月13日~15日

① こんにちは

参加してくれたのは7人。いつもより少ない人数でしたが、キャンプを楽しみにしてくれていた子どもたちと、いよいよキャンプの始まりです。新幹線を乗り継ぎ、バスに乗ってキャンプ場へ向かいます。3日間どんなキャンプになるのかな? (9/13)

④ 野鳥の池の野口さん

キャンプ場のすぐそばにある野鳥の池。そこにはどうやら夜中、石を投げられる野口さんという人がいるらしい…。今日の寝る場所を決めているとき、そんなことをスタッフがいきました。男の子たちは寝んだけれど、怖いと言いつつもその池にある橋の上で寝ることにしました。暗闇の中、寝袋1つだけ。明け方は寒かったけれど、初めてのドキドキするビバーク体験でした。翌朝、夜中にボチャンという音聞いたと言うスタッフ、聞いていない子どもたち。真相はどうだったのでしょうか。(9/13)



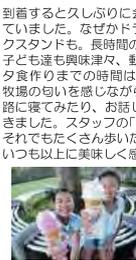
⑦ 最後の夜だから

2日目の夜=最後の夜。「今日は寝ないの!」と女の子たち。お話ししたり、しりとりをしたりとがんばっていただけれど、灯りを消したらさすがに眠気に誘われたい。男の子たちは広場でビバーク。たき火をしながらいよいよ「鍋を沸かして飲む」鍋粥ごっこをしよう。あいにく星堂は見えなかったけれど、最後の夜楽しんで、いつのまにかグッスリ眠っていました。明日もいい天気だといひね。(9/14)



② すぐ近くって言ったのに

到着すると久しぶりに会うスタッフが待っていました。なぜかドラムにギターにマイクスタンドも。長時間の移動から解放され、子ども達も興味津々、動き回ります。夕食作りまでの時間は、道の駅まで散策。牧場の匂いを感じながら牛を眺めたり、道路に寝てみたり、お話ししたり、1時間弱歩きました。スタッフの「すぐ近く」は違ってたね。それでもたくさん歩いた後のソフトクリームは、いつも以上に美味しく感じました。(9/13)



⑤ 宝永山ハイキング

2日目も朝からご飯づくり。お屋敷においりもいっしょに作ります。この日は富士山が合目から見える宝永山ハイキング。ご飯の片づけをして、山に登る準備をした。車でも合目まであつて、そこからそれぞれペースでゆくり登りました。あいにく曇りで宝永火口も雲の切れ間に見えるくらいでしたが、気温が低いことやお菓子の袋が膨らむこと、自販機の飲み物の値段が高かったりするのを見て驚きました。最後まで富士山は見えなかったけれど、少しだけ富士山を身近に感じました。(9/14)



⑧ 気持ちをこばに

朝起きたらいい天気!朝は初めての食堂ごはんでした。荷物を整理してお部屋の掃除、道具の片づけを終えた後は、オリジナルの寄せ書きカードを作りました。誰からもなく「メッセージ書いて」と声が飛び交います。ちらちらとメッセージを覗くと、顔はみんな嬉しそうでした。終わりの会では、ドキドキしたけどひと言ずつ感想を発表しました。勇気を出して堂々と話す姿は素敵でしたよ。(9/15)



③ カレー作りも慣れたもの

夕食は牛・鶏2種類のカレーです。男の子はまき割りや火起こしに、女の子は包丁での食材切りに、積極的に取り組んでくれました。包丁の使い方も慣れたもので、切り方を披露する子もいます。半年前からまた1つ成長した姿を見せられました。みんなで作るのも美味しいね!たくさん食べた後は協力して、みんなで片づけをしました。(9/13)



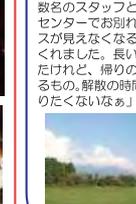
⑥ 浜松餃子200個!?

帰りの車でうたった寝たからか、戻ってきたみんなの体力は復活!時間のあいた30分でははる本館棟というところまで一輪車に乗りに行く子どももいました。今日の夕食はご当地グルメの富士宮焼きそばと浜松餃子、ローストチキンです。餃子を包むのは大変だったけど、200個の餃子がババに並ぶ姿を見る子どもたちは満足そうでした。焼くスタッフもまた大変だったけれど、たくさん餃子を食べるといふ夢は叶ったね!外で火を囲みながらお話を、ゆったりと過ごせた夕食になりました。(9/14)



⑨ また会おうね

数名のスタッフとは朝霧野外活動センターでお別れ。スタッフはバスが見えなくなるまで手を振ってくれました。長い移動が待っていたけれど、帰りの時間は早く感じたもの。解散の時間が近づくと「帰りたいくないなあ」とももらいます。お別れはいつも寂しいけれど、それはキャンプが楽しかったから。次のキャンプでの再会を約束して、みんなとお別れができました。(9/15)



子どもキャンプ通信 その14



日程：2015年3月28日(土)～3月31日(火) 3泊4日
場所：静岡県立朝霧野外活動センター・キャンプ場(静岡県富士宮市)
対象：東日本大震災で大切な家族を失った小学3年生から高校3年生
費用：無料(参加費と集合・解散場所から現地までの交通費は主催者が負担します。ただし、集合場所までの交通費は各自ご負担ください。)

※このキャンプは朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた東日本大震災救援募金によって実施されます。
定員：30人程度
主催：公益社団法人日本キャンプ協会・公益財団法人日本YMCA 同盟
 社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団

朝霧高原での最後のキャンプ
 たくさん友達に会って たくさん笑って たくさん遊ぼう!



私たちは、2011年に起こった東日本大震災でたいせつな人々を失った子どもたちを対象に、これまでに5回のキャンプをおこなってきました。
 毎回キャンプでは、普段できないことを思いっきり楽しむ子どもたちの姿があります。今回6回目となるキャンプは、静岡県の朝霧高原で実施する最後のキャンプです。
 この時期ならではのスポーツを楽しみ、のんびりとした生活の中で、いっしょに楽しいキャンプをしたいと思っています。

スケジュール(予定)

- 1日目・3月28日(土)**
 あさ 集合(仙台・一ノ関・東京など参加者に合わせて設定します)
 /新幹線・バスなどで移動(スタッフが引率します)
 ひるすぎ 朝霧野外活動センターに到着/始めの会/野外炊事
 よる ナイトプログラム/夜のついで/就寝(テント泊)
- 2日目・3月29日(日)**
 あさ 朝のついで/野外炊事/おこのみ活動(いくつかのプログラムから選びます)
 ひる おこのみ活動/野外炊事
 よる ナイトプログラム(プラネタリウム)/夜のついで/就寝(テント泊)
- 3日目・3月30日(月)**
 あさ 朝のついで/野外炊事/おこのみ活動(いくつかのプログラムから選びます)
 ひる おこのみ活動/野外炊事
 よる ナイトプログラム(スケート)
 /夜のついで/就寝(テント泊)
- 4日目・3月31日(火)**
 あさ 朝のついで/荷物片づけ
 /おみやげづくり
 ひるまえ 終わりの会/バス・新幹線などで移動
 夕方 解散(スタッフが引率します)



※今回は、2015年秋・冬ごろ、保護者も一緒に集まれる会を予定しています。

キャンプの生活について

- ・テントに宿泊します。浴室はありませんが、全員がいつでも利用できるほどのシャワー室がある、十分な設備が整ったキャンプ場を利用します。
- ・ごはんは自炊です。火起こしをはじめ、食材の準備や調理など、みんなで分担して作ります。
- ・経験豊富なキャンプカウンセラーが、参加する子どもたちといっしょに過ごし、必要に応じて生活や活動のお手伝いをします。



会場は富士山の高原、富士宮市です。

集合と解散について

- ・集合・解散場所は、一ノ関駅、仙台駅、東京駅など、参加者の居住地域を考慮して設定します。それ以外の地域にお住まいの場合は、相談のうえ決めます。
- ・主催団体のスタッフが、集合から解散まで責任を持って引率します。
- ・遠方にお住まいの方も、個別の集合や前泊などの対応もしますので、「行ってみたいけれど…」と迷われたら遠慮なくご相談ください。

費用と保険について

- ・参加費は無料です。集合・解散場所から現地までの往復交通費は、主催者が負担します。ただし、自宅から集合・解散場所までの交通費は各自で負担してください。
- ・主催者が一括して旅行傷害保険に加入します。

お申し込みについて

- ・所定の申し込み用紙に必要事項を記入して、FAXまたは郵送でお送りください。受付後、詳しいご案内をお送りします。
- ・締め切りは**2月10日(火)**です。お早めにお申し込みください。

キャンプでは何ができるの？

- ・マウンテンバイクで湖や牧場を見まわったり、近くを散策したり、この時期にしかできないスケートもできます。ほかに室内でできるクラフトなど、たくさんの遊びを考えています。

参加者説明会について

- ・はじめての参加者がいる場合は説明会をおこなう予定です。日程や会場は別途、お知らせします。
- ・参加できなくても、電話でお話を伺いますのでご安心ください。

お問い合わせ・お申し込み先
公益社団法人日本キャンプ協会(担当：吉野・前田)
 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター内
 電話：03-3469-0217 FAX：03-3469-0504 E-mail：ncaj@camping.or.jp

※申し込み時にお振りした個人情報、公益社団法人日本キャンプ協会が責任を持って管理し、このキャンプの実施および今後のキャンプ等のご案内にのみ使用します。
 ※このキャンプは、公益社団法人日本キャンプ協会、公益財団法人日本YMCA 同盟、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団が、国内外のキャンプ関係団体の協力を得て実施するものです。

こどもキャンプ通信 17
SKY CAMP ニュースレター

2015年4月24日
 発行：日本キャンプ協会・日本YMCA 同盟・朝日新聞厚生文化事業団

春を感じるキャンプでした！



1月にご案内していた「SKY CAMP あさざり2015春」を3月28日～31日の3泊4日で行いました。参加してくれたのは小学2年生～中学3年生までの男女13人。今回は初参加が3人、緊張もありましたがすぐに溶け込んでいました。
 場所は静岡県の朝霧高原。過去に2回利用しているキャンプ場で富士山に見守られながら、天気にもめぐまれ気持ちよくキャンプができました。キャンプ場内のアクティビティや周辺地域の散策、さまざまな体験をしました。そのキャンプの様子を少しだけ紹介します。

キャンプの概要

名称：SKY CAMP あさざり2015春
 日程：2015年3月28日～31日(3泊4日)
 主催：日本キャンプ協会・日本YMCA 同盟・朝日新聞厚生文化事業団
 協力：静岡県立朝霧野外活動センター

※本事業は朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた寄付金を用いて実施しています。



スケジュール

1日目	2日目	3日目	4日目
集合 移動(新幹線・バス) 施設到着 はじめの会 道の駅まで散策 夕食作り(カレー) 夜のついで	朝のついで 朝食作り お好み活動 [MTB・クラフト] (昼食) 夕食作り(鍋・味噌おでん) アイススケート プラネタリウム鑑賞 夜のついで	朝のついで 朝食作り ハイキング (昼食) 夕食作り(BBQ) アイススケート 夜のついで	朝のついで 朝食(食卓) 思い出アルバム作り おわりの会 施設出発 移動(バス・新幹線) 解散

すかい きゃんぷ SKY CAMP あさぎり 2015 春 2015年3月28日~31日

① こんにちは

参加してくれたのは、13人。青森、岩手、宮城、福島、島根から集まりました。青森の2人は初参加、緊張でときどき、キャンプに参加しただことあるみんなは久しぶりの再会です。新鮮感を乗り継ぎ、バスに乗ってキャンプをする朝霧野活動センターへ向かいます。4日間どんなキャンプになるのかな? (3/28)



② 嵐な気分

長い移動も終わり! キャンプ場に到着! スタッフが笑顔で迎えてくれました。最初のプログラムは道の駅までの散策でした。大きな富士山、たくさんのお牛、タヌキみたいな猫を眺めながら、話もはずみ気がつければ道の駅に着いていました。みんなソフトクリームを食べて癒され、男の子たちは、嵐が写真を撮ったという場所で決めポーズ。アイドル気分になりました。(3/28)



③ カレー作り! お肉は骨付き?!

調理開始! 役割分担も自然にできちゃいます。男の子はまさき割りとお火起こし。こんなに大きな炎大丈夫?—すくく燃やしました。女の子は包丁での食材切りに積極的に取り組んでくれました。キャンプで慣れたのかお家でのお料理上手ばかりで驚かされます。日コ・中辛2種類のカレー。中に入るお肉はなんとスベアリア! たいへん美味しくいただきました。(3/28)



④ おこのみ活動 マウンテンバイクとクラフト

2日目はおこのみ活動、マウンテンバイクがクラフトから選びました。マウンテンバイクは再び道の駅に! この日はお祭りが行われていて、先着3000名に美味しいお肉が食べられるイベントがありました。歩くとはまた違う、マウンテンバイクならではの爽快感を感じました。クラフトはカラフルで小さな輪ゴムを使いプレスレット作りをしました。みんな手先が器用で、きれいな作品がいっぱいできました。余った時間は施設の長い廊下を使って、だるまさんが転んだを遊びました。(3/29)



⑤ 静岡 ODEN

静岡県といえばおでんです。出汁が黒く、だし粉をかけて食べます。ディレクターがみずから長い時間をかけてコトコト。名物の黒はんぺんも美味しかったね。(3/29)



⑥ ゼウスは牛になるの?

朝霧野活動センターには体育館、スケート場、プラネタリウムがあります。2日目の夜はプラネタリウムで星のお話を聞きました。ゼウスがいんなものに姿を変えて星になっていることには驚いたけど、春の星座や星から方角を知る方法を勉強し、外で見る星とはまた違う眺めは癒しの時間でした。(3/29)



⑦ 陣馬の滝からマイナスイオン

3日目はキャンプ場周辺ハイキングに出かけました。コースは湧水、養鶏場、陣馬の滝などを巡り、お土産屋さんで寄るものでした。この地域はわきびが作れるほどキレイな湧水が出ています。滝で昼食を食べ、水浴びをして遊びました。水はまだとても冷たくてシャワーだけでも気持ちよかったです。日向ぼっこしたくなるくらい天気が良くハイキング日和の1日でした。(3/30)



⑧ 豪華なディナーからのアイススケート!

3日目の夕食は富士宮やきそば、ローストビーフ・チキンをお腹いっぱい食べました。食べた後はアイススケートです。コーチのお姉さんにスピンやジャンプを教えてもらいました。みんな滑輪なんてものともせず優雅に滑っていました。(3/30)



⑨ 最後の夜

最後の夜は外で寝ました。寝る前のおしゃべりも最後。いつもよりなんだか盛り上がりがあります。男の子たちは、震災当時のお話をしてみんなで考える時間になりました。外は寒いけど寝袋の中はすごく温かい。みんなよく眠れたかな。(3/30)

⑩ 笑顔でまたね

最後のプログラムは思い出アルバム作り。アルバムにはみんなからのコメントを書いてももらいました。えっ? もうお別れ? 朝霧野活動センターやスタッフとさよならです。4日間って早いよね。帰りの新鮮感では癒されて寝ている子もいれば、遊んでいる子も、しっとりとアルバムを見つめる子もいました。最後のお別れの時は笑顔でまたねできました。(3/31)



ごどもキャンプ通信 その17

SKY CAMP のつどい ■ 募集要項

紅葉の秋保温泉へ スカイキャンプのつどい

日程
10/31(土)
~ **11/1(日)**
[1泊2日]

遅れての参加も
早めの帰宅も

OK

保護者だけでも
子どもだけでも

OK

参加を迷ったら
ご連絡ください

キャンプではないけれど
キャンプのなかまとその家族が集まり
キャンプの思い出をふりかえったり
最近のできごとを話しあったり
1泊2日の短い時間
いっしょに楽しい時間を過ごしませんか?

お問い合わせ・お申し込み先
公益社団法人日本キャンプ協会
(担当: 前田・吉野)
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
国立オリンピック記念青少年総合センター内
電話: 03-3469-0217 FAX: 03-3469-0504
E-mail: ncaj@camping.or.jp

スカイキャンプのつどい

日時: 2015年10月31日(土)15時~
11月1日(日)12時頃 1泊2日

場所: 秋保温泉郷、秋保グランドホテル【宿泊】(宮城県仙台市太白区)

対象: スカイキャンプに参加したことのある子どもとその家族およびスタッフ

費用: 子どもにかかる費用は無料です。保護者については、1家庭2名分までの交通費(自宅からの実費)と宿泊費(含む夕朝食)をご自分で負担いたします。
※その他の方の参加も歓迎します。ただし、費用については各自(実費)ご負担いただきますので、ご了承ください。
※自宅から集合場所までの交通手配はご自身でお願いいたします。

主催: 公益社団法人日本キャンプ協会・公益財団法人日本YMCA 同盟
社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団
※このキャンプは朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた日本大震災救済募金によって実施されます。

スケジュール(予定)

<p>15:00 集合(仙台駅) バス移動(仙山西武ライナー)</p> <p>16:00 到着 & みんなで周辺散策</p> <p>18:30 ホテルで夕食</p> <p>19:30 キャンプのおもひでぼろぼろ 写真をみながらキャンプをふりかえる時間、大人だけ・子どもだけの時間を作る予定です。</p> <p>21:00 自由時間(各自お風呂、就寝)</p>	<p>各自起床</p> <p>7:00 頃 朝食</p> <p>9:00 秋保を満喫! のんびり時間 近くの工場の里で工芸体験したり、森林スポーツ公園で遊んだりできます。スタッフもいるので大人と子どもの別行動も対応可能です。</p> <p>11:00 頃 ホテル集合 バス移動(仙山西武ライナー)</p> <p>12:00 頃 解散(仙台駅)</p>
---	---

※今日日帰りの参加は受け付けておりません。
 ※「キャンプのおもひでぼろぼろ」の時間に間に合えば遅れての参加も結構です。
 ※2日目の朝食後に帰られる場合もご対応いたします。
 ※なるべく公共交通機関のご利用をお願いしますが、自家用車での移動にもご対応いたします。(ホテル集合・ホテル解散も)

申込締切
9月10日
(木)まで

お申し込み
同封した申込用紙を FAX 送信または郵送でお送りください

お問い合わせ
公益社団法人日本キャンプ協会(担当: 前田・吉野)まで

本報告書で紹介するグリーンキャンプは三団体の共同事業として実施しました。
実施にあたっては、朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた東日本大震災救援募金を活用させていただき、
本報告書の作成も同基金を用いて作成されています。
またこれまでを通して、国内外のキャンプ関係者、企業、個人からも物心両面から協力をいただきました。
みなさまより多大な協力をいただきましたことに感謝いたします。

共同団体

公益社団法人日本キャンプ協会
公益財団法人日本YMCA同盟
社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団

協賛

株式会社ロゴスコーポレーション
高島株式会社

協力

静岡県立朝霧野外活動センター	NPO法人子どもの体験活動サポートセンター
NPO法人子どもグリーンサポートステーション	一般社団法人宮城県キャンプ協会
富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ	神戸YMCA余島野外活動センター
International Camping Fellowship	Camp Fire USA First Texas Council
中華民國露營休閒車協會	行政院農業委員會林務局
國立臺灣師範大學	東眼山自然教育センター

(順不同)

Gift for the Next 100 Years

2014.4.1—2016.3.31 | グリーンキャンプ報告書

発行所 | 公益社団法人日本キャンプ協会
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
国立オリンピック記念青少年総合センター内
電話 | 03-3469-0217 E-mail | ncaj@camping.or.jp
WEB | www.camping.or.jp

発行日 | 2016年3月31日

デザイン | 株式会社 スタンダード・インク



NCAJ

National Camping Association of Japan

公益社団法人日本キャンプ協会

www.camping.or.jp

この報告書は、朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた東日本大震災救援募金で作成されています。